

第 **2** 章

高校生の学習に関する 意識・実態

十河 直幸 (1節1・3項、2節1項)
鈴木 尚子 (1節2項)
宮本 幸子 (1節2項、2節6項)
木村 治生 (1節4項)
西島 央 (2節2・3・7項)
諸田 裕子 (2節4・5項)



高校生の学習行動

1. 学校での学習の様子

① 好きな教科

高校生が好きな教科のベスト・スリーは、「体育」69.9%、「音楽」46.9%、「国語」45.1%である。逆にワースト・スリーは「公民」25.8%、「総合的な学習の時間」27.1%、「美術」36.8%である。時系列的にみると、「国語」「理科」「体育」の3教科で「好き」とする回答が第1回以降、増加している。

Q | あなたは、次の教科や学習の時間の勉強がどのくらい好きですか。

高校生は教科の勉強をどのように考えているのだろうか。高校生の教科観を(1)好きな教科、(2)授業の理解度という2つの側面から報告する。

まず高校生の好きな教科について結果を図2-1-1に示す。第3回以降では「社会(地歴・公民)」、「芸術」を、それぞれ「地歴」と「公民」、「音楽」と「美術」に分け、また「総合的な学習の時間」を項目に追加してたずねている。

全体としてみると、高校生が好きな教科のベスト・スリーは、第1位「体育」69.9%（「好き」＝「とても好き」＋「まあ好き」の%、以下同）、第2位「音楽」46.9%、第3位「国語」45.1%である。以下「英語」「地歴」42.5%、「理科」41.8%と続く。逆に「好き」とする回答が少ないのは、第1位「公民」25.8%、第2位「総合的な学習の時間」27.1%、第3位「美術」36.8%である。

なお「総合的な学習の時間」は第3回では「履修したことがない」者が38.0%であり、また「好き」とする回答も履修者のうち2割程度であった(19.2%)。2003年以降は学習

指導要領の改訂により必修科目となったものの、「好き」と回答した比率は27.1%で他の教科に比べ少ない。また「どちらともいえない」と答えた者が45.4%と、高校生にとって評価がつけづらい様子がうかがえる。

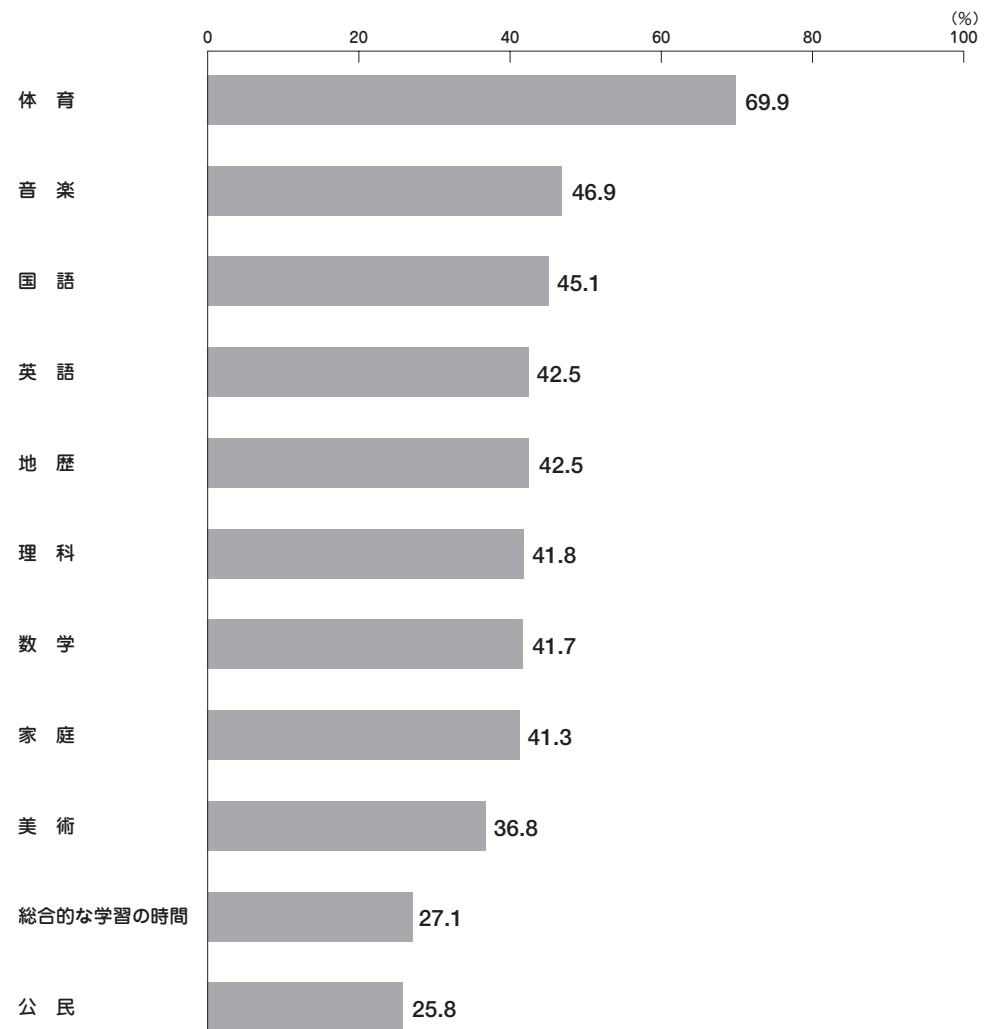
表2-1-1は性別による結果を示したものである。性差が10ポイント以上ある教科のうち、男子で高いのが「数学」「理科」、女子で高いのが「国語」「英語」「音楽」「美術」「家庭」である。他方、「地歴」「公民」「総合的な学習の時間」では、性差がみられない。さらに「公民」「総合的な学習の時間」は男子、女子ともに「好き」と回答した比率が低く、3割に満たない。

学校の偏差値帯別でみると(表2-1-2)、偏差値55以上の学校群では、実技教科以外の教科を「好き」とする回答が他の学校群より多く、他方、50未満の学校群では実技教科を「好き」とする回答が多めだ。なお、全体および性別では「好き」と回答する割合が3割以下である「総合的な学習の時間」は、45以上50未満の学校群で「好き」とする回答が目立つ(40.3%)。

では時系列でみると、どのような変化があるのだろうか。結果を表2-1-3に示した。一部質問項目の変化により比較できないものもある(表中*印)が、第1回から第4回までで比較可能な6教科では、「国語」「理科」「体育」「家庭」で増加する傾向がみられ、とくに「家庭」は第1回と比べ16.1ポイントも増加している。

他方、第3回からの5年間の変化に注目すると、ほとんどの科目で目立った変化はなく、唯一、2003年以降必修となった「総合的な学習の時間」が7.9ポイント増加している。しかしこれも、第3回で4割近くが「履修したことがない」と回答していたことを勘案すると、伸びとしては少ないと考えられる。

図2-1-1 好きな教科(全体)



注1) 数値は「とても好き」と「まあ好き」の合計。
注2) サンプル数は4,464名。

表2-1-1 好きな教科(性別)

	(%)	
	男子 (2,168)	女子 (2,269)
国語	35.8	53.8
地歴	43.0	42.0
公民	27.0	24.8
数学	49.1	34.7
理科	49.2	35.1
英語	33.5	51.1
音楽	33.3	59.7
美術	30.5	42.8
体育	74.8	65.2
家庭	29.4	52.8
総合的な学習の時間	26.4	27.9

注1) 数値は「とても好き」と「まあ好き」の合計。
 注2) <>は10ポイント以上、<>は5ポイント以上差があるもの。
 注3) ()内はサンプル数。

表2-1-2 好きな教科(偏差値帯別)

	(%)			
	偏差値55以上 (1,593)	50以上55未満 (905)	45以上50未満 (416)	45未満 (1,550)
国語	48.8	46.7	47.8	39.4
地歴	49.6	46.1	44.0	32.6
公民	26.5	29.0	31.0	22.0
数学	48.6	40.5	35.6	36.8
理科	47.8	39.1	44.3	36.7
英語	48.1	44.4	37.2	37.1
音楽	45.6	44.7	45.9	49.8
美術	34.6	33.3	39.2	40.6
体育	73.7	65.9	77.2	66.3
家庭	42.6	34.0	44.0	43.6
総合的な学習の時間	22.3	21.1	40.3	32.3

注1) 数値は「とても好き」と「まあ好き」の合計。
 注2) <>は10ポイント以上、<>は5ポイント以上差があるもの。
 注3) ()内はサンプル数。

表2-1-3 好きな教科(時系列)

	(%)			
	第1回 (2,005)	第2回 (2,615)	第3回 (3,808)	第4回 (4,464)
国語	40.3	42.5	44.9	45.1
地歴	*49.7	*45.0	46.7	42.5
公民	*49.7	*45.0	25.6	25.8
数学	38.1	38.7	38.7	41.7
理科	34.7	38.0	40.4	41.8
英語	42.1	39.0	41.9	42.5
音楽	*54.2	*58.8	47.4	46.9
美術	*54.2	*58.8	35.4	36.8
体育	60.4	65.3	66.5	69.9
家庭	25.2	40.9	41.3	41.3
総合的な学習の時間	—	—	*19.2	27.1

注1) 数値は「とても好き」と「まあ好き」の合計。
 注2) 「地歴」「公民」は第1回は「社会」、第2回では「地歴・公民」としてたずねている。
 注3) 「音楽」「美術」は第1回・第2回では「芸術」としてたずねている。
 注4) 「総合的な学習の時間」は第1回・第2回に該当項目なし。また第3回は「履修したことがない」(38.0%)を除いて集計している。
 注5) <>は10ポイント以上差があるもの。
 注6) *は質問項目の変化により比較できないもの。
 注7) ()内はサンプル数。

② 授業の理解度

授業の理解度の高い順に並べると、「国語」47.2%、「数学」「英語」39.3%、「地歴」38.2%、「理科」36.2%、「公民」24.6%となる。時系列的にみると「地歴」を除き、授業の理解度に上昇傾向がみられる。

Q | 学校の授業をどのくらい理解していますか（わかっていますか）。

高校生の教科観をとらえるもう1つの側面、授業の理解度について、6教科の授業をどの程度理解しているかたずねた。図2-1-2は70%以上理解している者の比率（「ほとんどわかっている」＋「70%くらいわかっている」の％、以下同）を示している。理解度の高いほうから、「国語」47.2%、「数学」「英語」39.3%、「地歴」38.2%、「理科」36.2%、「公民」24.6%である。「国語」では半数近くにのぼるものの、「数学」「英語」「地歴」「理科」は4割弱、「公民」にいたっては4人に1人程度でしかない。あくまでも生徒の主観による自己評価ではあるが、大半の高校生は授業内容を理解できているという実感が低いことがうかがえる。

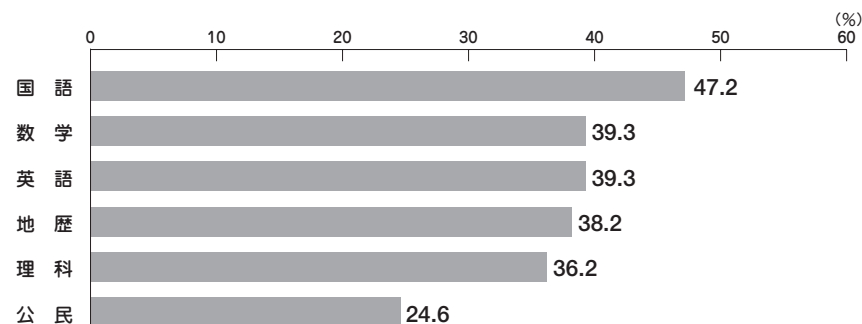
結果を性別でみると（表2-1-4）、男子は「数学」「理科」で、女子は「国語」でそれぞれ理解度が高く、10ポイント以上の差が

みられる。これは表2-1-1で確認した好きな教科の傾向に似ている。他方、好きな教科ではあまり性差がみられなかった「地歴」「公民」では、女子に比べ男子のほうが70%以上理解しているとする回答が5ポイント以上多い。

理解度を学校の偏差値帯別でみたのが表2-1-5である。高い偏差値帯の学校ほど理解度が高い傾向がみられ、とくに「国語」「地歴」「英語」で顕著である。

また時系列での変化をみると（表2-1-6）、「地歴」を除いて、理解度が上昇する傾向がみられ、とくに「国語」「理科」は第1回と比べ10ポイント程度増加している。高校生にとってみると「授業を理解できている」という感覚は回を追うごとに高まる傾向にあるといえるが、あくまでも生徒の自己評価であるという点を十分に留意する必要がある。

図2-1-2 授業の理解度（全体）



注1) 数値は「ほとんどわかっている」と「70%くらいわかっている」の合計。
注2) サンプル数は4,464名。

表2-1-4 授業の理解度（性別）

	(%)	
	男子 (2,168)	女子 (2,269)
国語	41.1	53.1
地歴	41.1	35.4
公民	27.2	22.1
数学	46.6	32.5
理科	43.0	29.7
英語	34.9	43.3

注1) 数値は「ほとんどわかっている」と「70%くらいわかっている」の合計。
注2) <>は10ポイント以上、<>は5ポイント以上差があるもの。
注3) ()内はサンプル数。

表2-1-5 授業の理解度（偏差値帯別）

	(%)			
	偏差値55以上 (1,593)	50以上55未満 (905)	45以上50未満 (416)	45未満 (1,550)
国語	57.3	48.8	43.8	36.8
地歴	47.5	37.3	36.8	29.5
公民	32.0	22.4	28.2	17.4
数学	45.6	37.1	34.4	35.6
理科	42.1	30.3	40.2	32.4
英語	49.1	38.3	33.0	31.5

注1) 数値は「ほとんどわかっている」と「70%くらいわかっている」の合計。
注2) <>は10ポイント以上、<>は5ポイント以上差があるもの。
注3) ()内はサンプル数。

表2-1-6 授業の理解度（時系列）

	(%)			
	第1回 (2,005)	第2回 (2,615)	第3回 (3,808)	第4回 (4,464)
国語	37.7	41.3	44.9	47.2
地歴	*38.3	*37.7	38.5	38.2
公民	*38.3	*37.7	23.2	24.6
数学	34.6	31.6	32.6	< 39.3
理科	26.0	27.3	31.6	36.2
英語	35.5	31.3	< 38.3	39.3

注1) 数値は「ほとんどわかっている」と「70%くらいわかっている」の合計。
注2) 「地歴」「公民」は第1回は「社会」、第2回では「地歴・公民」としてたずねている。
注3) *は質問項目の変化により比較できないもの。
注4) <>は5ポイント以上差があるもの。
注5) ()内はサンプル数。

③ 文理のコース

現在のコース選択は、「文系」46.7%、「理系」38.2%、「どちらでもない・未定」14.5%という状況である。男子で、また学校の偏差値の高い学校群ほど、「理系」の比率が高くなる傾向がみられる。

Q | あなたは文理どちらのコースですか。

現在の文系・理系のコースの選択状況を全体および性別で図2-1-3に示している。ただし設問の形式から、「①学校で類型制が採用されており、そこでいずれかのコースを選択している場合」のほか、「②学校では類型制は採用されていないが、主観的に文系・理系いずれにあてはまるかを答えた場合」の、双方が含まれると考えられる。

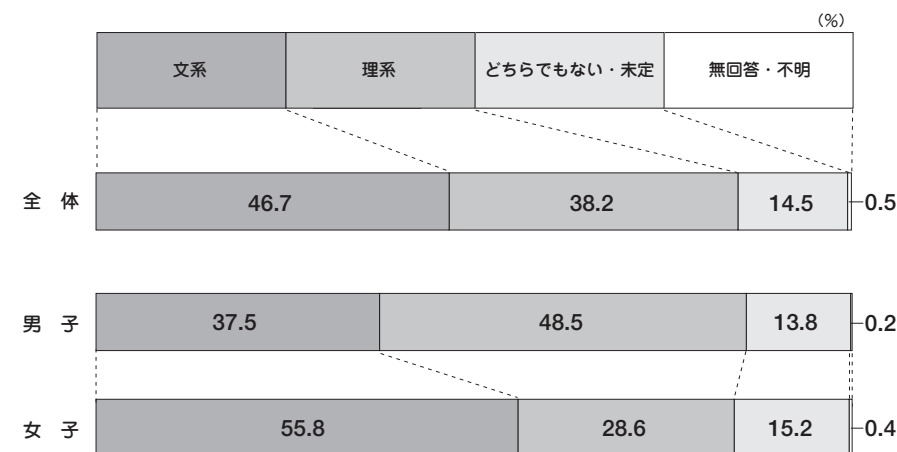
全体としては「文系」46.7%、「理系」38.2%、「どちらでもない・未定」14.5%という状況であり、第3回でも同様の傾向がみられた（第3回では「文系」47.8%、「理系」38.5

%、「どちらでもない・未定」12.2%）。

性別でみると、男子で「理系」（48.5%）、女子で「文系」（55.8%）がほぼ半数を占める。

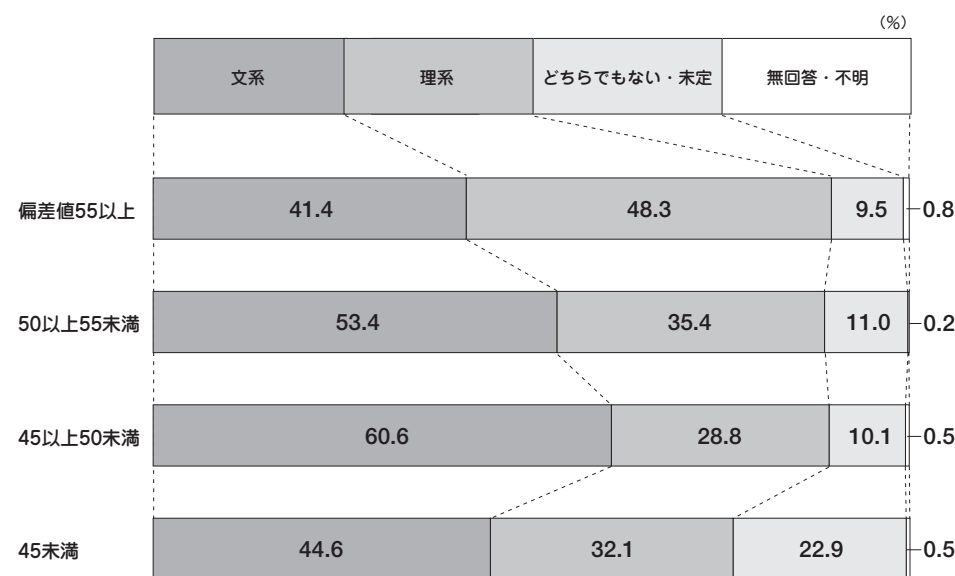
また、学校の偏差値帯別での文系・理系のコース選択状況（図2-1-4）をみると、偏差値45以上の学校群では、高い偏差値帯の学校群ほど「理系」の比率が高くなる傾向がみられる（偏差値45以上50未満28.8%、50以上55未満35.4%、55以上48.3%）。なお45未満の学校群では「どちらでもない・未定」が22.9%と他の学校群に比べ多いことが目立つ。

図2-1-3 文理のコース（全体・性別）



注) サンプル数は全体4,464名、男子2,168名、女子2,269名。

図2-1-4 文理のコース（偏差値帯別）



注) サンプル数は偏差値55以上1,593名、50以上55未満905名、45以上50未満416名、45未満1,550名。

④ 高校3年間で履修する予定の科目

科目によって履修(予定)率の差は大きく、半数を切っているのは、「地理」「数学Ⅲ」「倫理」「物理」「政治・経済」「地学」である。

Q あなたは、高校3年間でどの教科・科目を履修することになると思いますか。高校1年生から3年生までの間に履修する予定のものすべてに○をつけてください。

「数学」「理科」「地歴」「公民」の4教科に関して、高校3年間で履修する科目(予定を含む)をすべて選択させ、学校の偏差値帯別に整理したのが、表2-1-7である。あくまでも今回の調査対象校での履修(予定)率であり、全国の履修状況を示すものではないことに留意したい。

教科別にまとめると以下ようになる。
 数学…数学Ⅰ、数学A 94.2%、数学Ⅱ、数学B 87.2%、数学Ⅲ 39.9%
 理科…生物78.1%、化学64.6%、物理38.8%、地学21.7%
 地歴…世界史72.2%、日本史56.5%、地理45.7%
 公民…現代社会59.7%、倫理39.4%、政治・経済30.8%

履修(予定)率が半数を切っているのは、「地理」「数学Ⅲ」「倫理」「物理」「政治・経済」「地学」であった。第3回では「現代社会」の履修(予定)率が39.0%であったが、今回は59.7%とほぼ6割となっている。

学校の偏差値帯別にみると、次のような傾向がみられる。

- ①「物理」「数学Ⅲ」は、偏差値が高い学校群ほど履修(予定)率が高い。
- ②「現代社会」は偏差値50未満の学校群で履修(予定)率が高い。

表2-1-7 高校3年間で履修する予定の科目(全体・偏差値帯別)

履修予定率	全体 (4,464)		偏差値55以上 (1,593)		50以上55未満 (905)		45以上50未満 (416)		45未満 (1,550)	
90%以上	数学Ⅰ, 数学A	94.2	数学Ⅰ, 数学A	97.6	数学Ⅰ, 数学A	96.1			数学Ⅰ, 数学A	90.8
			数学Ⅱ, 数学B	96.4	数学Ⅱ, 数学B	96.1				
80%以上	数学Ⅱ, 数学B	87.2	生物	81.5			数学Ⅰ, 数学A	89.7		
							世界史	87.5		
							数学Ⅱ, 数学B	83.2		
							生物	82.0		
70%以上	生物	78.1	化学	76.8	生物	79.3	現代社会	73.6	数学Ⅱ, 数学B	73.6
	世界史	72.2	世界史	73.8	倫理	75.2			生物	72.8
									世界史	70.6
									現代社会	70.5
60%以上	化学	64.6			世界史	65.3	日本史	62.0		
					地理	64.9				
					化学	63.0				
50%以上	現代社会	59.7	物理	58.4	日本史	59.8			日本史	59.9
	日本史	56.5	現代社会	57.8	地学	55.4			化学	58.4
			倫理	52.9						
			数学Ⅲ	51.8						
40%以上	地理	45.7	日本史	49.9			化学	44.0	地理	42.6
			地理	41.7						
30%以上	数学Ⅲ	39.9			物理	39.0	地理	31.3	数学Ⅲ	32.1
	倫理	39.4			現代社会	38.3			政治・経済	30.4
	物理	38.8			数学Ⅲ	37.6				
	政治・経済	30.8			政治・経済	37.6				
20%以上	地学	21.7	政治・経済	29.3			物理	29.1	物理	21.2
							数学Ⅲ	28.6		
							政治・経済	23.8		
10%以上			地学	15.4					倫理	14.8
									地学	13.8
10%未満							地学	1.7		
							倫理	1.4		

注1) 複数回答。
 注2) ()内はサンプル数。

⑤ 授業の受け方

時系列的にみると、授業態度の積極化と授業中の逸脱行為の増加という相反する傾向がみられる。「授業でわからないことは、あとで先生に質問する」は第1回から一貫して増加している(第1回27.6%→第4回43.5%)一方、第3回まで減少傾向にあった「内職(他の科目の勉強など)をする」(第3回39.1%→第4回46.0%)、「近くの人とおしゃべりをする」(第3回38.1%→第4回45.4%)は増加に転じている。

Q | あなたの授業中の様子についてうかがいます。

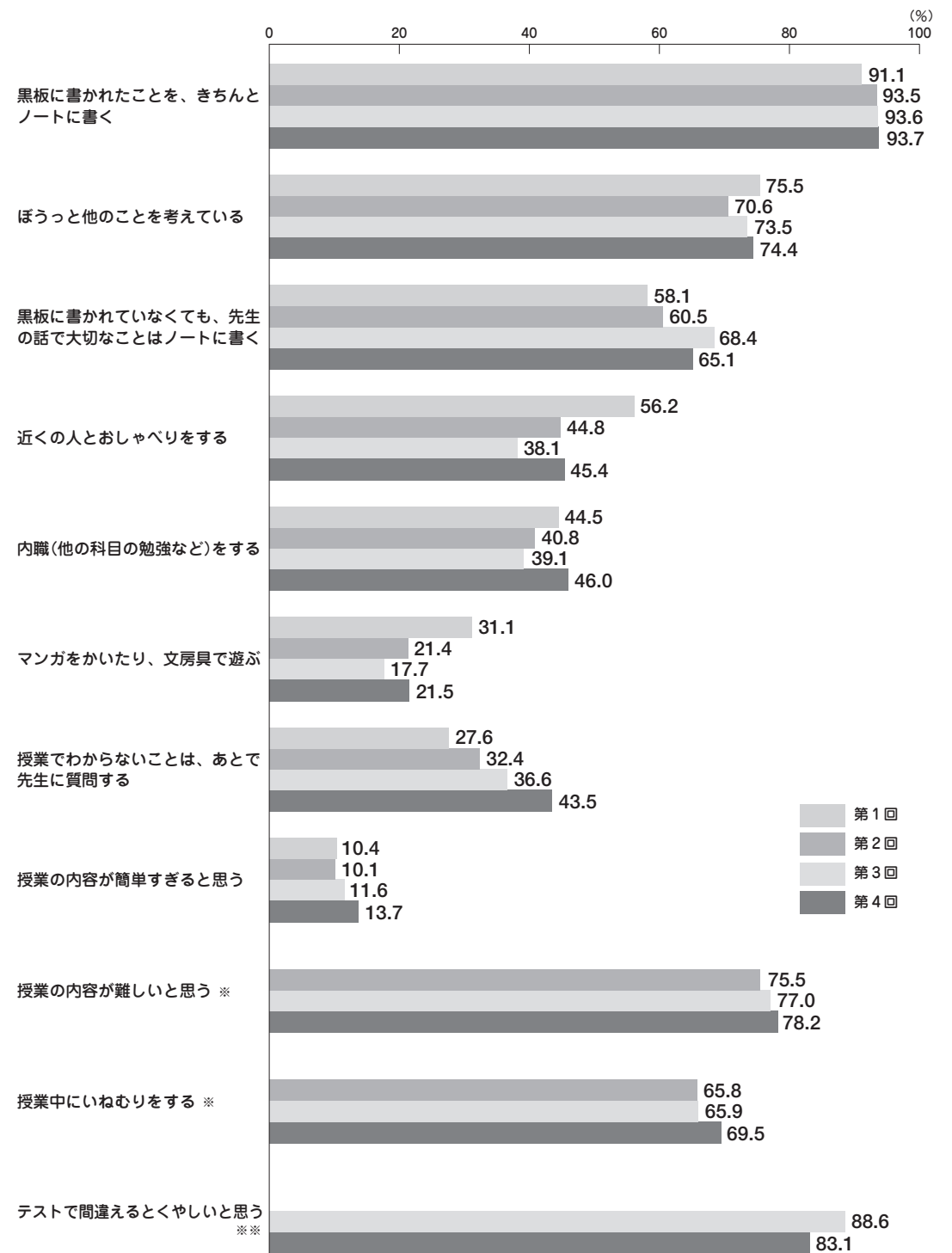
授業の受け方について11項目をあげてたずねた。「ある」(「よくある」+「時々ある」の%、以下同)と回答した者の比率を第1回から第4回までの時系列で図2-1-5に示している。「黒板に書かれたことを、きちんとノートに書く」は、93.7%と9割を超え、この傾向は第1回から継続している。また「黒板に書かれていなくても、先生の話で大切なことはノートに書く」は第3回の68.4%に比べ65.1%とやや減少しているものの、7割近い高校生が回答している。さらに「授業でわからないことは、あとで先生に質問する」は第1回から一貫して増加傾向にあり、第4回では43.5%と授業への積極性が高まっている様子がうかがえる。

他方、第3回までは減少する傾向がみられた授業中の逸脱行為は、第4回では増加に転

じている項目も目立つ。「内職(他の科目の勉強など)をする」(第3回39.1%→第4回46.0%)、「近くの人とおしゃべりをする」(第3回38.1%→第4回45.4%)は、7ポイント程度増加している。「ぼうっと他のことを考えている」は74.4%で、第1回からほぼ一定の比率である。

また「授業の内容が難しいと思う」と回答している高校生はほぼ8割にのぼる一方で、「授業の内容が簡単すぎると思う」とするのは1割程度である。これらの比率は時系列でも一定しており(「授業の内容が難しいと思う」第2回75.5%→第4回78.2%、「授業の内容が簡単すぎると思う」第1回10.4%→第4回13.7%)、「授業の内容が難しいと思う」高校生がほとんどを占めている状況が続いている。

図2-1-5 授業の受け方(時系列)



注1) 数値は「よくある」と「時々ある」の合計。
 注2) ※は第1回に該当項目なし。
 注3) ※※は第1回・第2回に該当項目なし。
 注4) サンプル数は第1回2,005名、第2回2,615名、第3回3,808名、第4回4,464名。

表2-1-8は性別による授業の受け方の違いを示したものである。総じて女子のほうが積極的に授業を受けている傾向がみられ、「黒板に書かれていなくても、先生の話で大切なことはノートに書く」(女子75.9%>男子53.8%)、「授業でわからないことは、あとで先生に質問する」(女子48.9%>男子37.7%)の2項目では、男子と比べ10ポイント以上の差がみられる。しかし授業の内容については、「授業の内容が難しいと思う」(女子83.8%>男子72.5%)と女子のほうが男子より11.3ポイント高く、さらに「授業の内容が簡単すぎると思う」(男子18.6%>女子9.0%)も女子は男子に比べ半分以下になるなど、女子のほうが授業の内容を難しく感じる傾向がみられる。これは女子が授業を積極的に受けていることにより、授業内容の難しさを実感する機会が男子に比べて多いことが考えられる。

学校の偏差値帯別の授業の受け方(表2-1-9)の特徴として、次の2点があげられる。

①「黒板に書かれていなくても、先生の話で大切なことはノートに書く」「授業でわからないことは、あとで先生に質問する」は、高い偏差値帯の学校群ほど「ある」と回答する比率が高くなる傾向がある。しかし一方で偏差値55以上の学校群では「内職をする」者が51.3%と半数を占めている。

②「近くの人とおしゃべりをする」「マンガをかいたり、文房具で遊ぶ」などの逸脱行為は、高い偏差値帯の学校群ほど「ある」と回答する比率が低くなる傾向がみられる。一方で偏差値45未満の学校群ではほぼ6割の高校生(59.6%)が「近くの人とおしゃべりをする」ことがあると回答している。

これらのことから、高い偏差値帯の学校群、または女子で授業に対して積極的な態度がみられる一方、低い偏差値帯の学校群で逸脱行為が目立つということである。しかし、これらの傾向は、高校生の自己評価、主観的な判断であることに留意しておく必要がある。

表2-1-8 授業の受け方(性別)

	(%)	
	男子 (2,168)	女子 (2,269)
黒板に書かれたことを、きちんとノートに書く	90.8	< 96.6
テストで間違えるとくやしと思う	81.8	84.3
授業中にいねむりをする	72.8	> 66.5
授業の内容が難しいと思う	72.5	≪ 83.8
ぼうっと他のことを考えている	72.0	76.4
黒板に書かれていなくても、先生の話で大切なことはノートに書く	53.8	≪ 75.9
内職(他の科目の勉強など)をする	45.5	46.6
近くの人とおしゃべりをする	44.8	46.0
授業でわからないことは、あとで先生に質問する	37.7	≪ 48.9
マンガをかいたり、文房具で遊ぶ	22.1	20.9
授業の内容が簡単すぎると思う	18.6	> 9.0

注1) 数値は「よくある」と「時々ある」の合計。
 注2) ≪ ≫は10ポイント以上、< >は5ポイント以上差があるもの。
 注3) ()内はサンプル数。

表2-1-9 授業の受け方(偏差値帯別)

	(%)			
	偏差値55以上 (1,593)	50以上55未満 (905)	45以上50未満 (416)	45未満 (1,550)
黒板に書かれたことを、きちんとノートに書く	94.1	93.2	96.4	92.9
テストで間違えるとくやしと思う	85.4	82.8	83.9	80.6
授業の内容が難しいと思う	79.9	78.8	80.3	75.7
授業中にいねむりをする	73.6	74.1	≫ 56.7	< 66.2
黒板に書かれていなくても、先生の話で大切なことはノートに書く	72.4	68.6	66.1	≫ 55.3
ぼうっと他のことを考えている	71.1	75.9	72.9	77.2
内職(他の科目の勉強など)をする	51.3	48.2	≫ 31.0	≪ 43.5
授業でわからないことは、あとで先生に質問する	48.2	46.6	> 39.4	37.8
近くの人とおしゃべりをする	32.2	< 40.2	≪ 54.5	< 59.6
マンガをかいたり、文房具で遊ぶ	18.1	21.7	21.9	24.9
授業の内容が簡単すぎると思う	12.0	14.1	12.5	15.4

注1) 数値は「よくある」と「時々ある」の合計。
 注2) ≪ ≫は10ポイント以上、< >は5ポイント以上差があるもの。
 注3) ()内はサンプル数。

⑥ 好きな学校の勉強方法

高校生が好む勉強方法（授業のタイプ）ベスト・スリーは、「先生が黒板を使いながら教えてくれる授業」（82.9%）、「友だちと話し合いながら進めていく授業」（60.7%）、「ドリルやプリントを使ってする授業」（55.7%）である。第3回と比べ「パソコンを使ってする勉強」が増加している一方で、「いろいろな人に聞きに行っている授業や調査」「考えたり調べたりしたことをいろいろな工夫して発表すること」は減少している。

Q | あなたは、次にあげる学校の勉強方法は、どのくらい好きですか。

高校生はどのようなタイプの授業を好んでいるのか、「好き」（「とても好き」＋「好き」の%、以下同）と回答した者の比率を図2-1-6に第3回と比較して示した。「先生が黒板を使いながら教えてくれる授業」82.9%、「友だちと話し合いながら進めていく授業」60.7%は、第3回と同様に高校生に高い支持を得ている学校の勉強方法であることが確認できる。また第3回と比べ増加している項目として「パソコンを使ってする勉強」（第3回45.4%→第4回52.3%、以下同）、「ドリルやプリントを使ってする授業」（50.8%→55.7%）がある。これらのことから、高校生は黒板を使った従来型の授業スタイルに加え、パソコンを使っての授業を好んでいることがうかがえる。

他方、「個人で何かを考えたり調べたりする授業」（47.3%→42.4%）、「グループで何かを考えたり調べたりする授業」（51.3%→48.9%）、「いろいろな人に聞きに行っている授業や調査」（32.5%→26.8%）、「考えたり調べたりしたことをいろいろな工夫して発表すること」（30.0%→25.0%）など、「総合的な学習の時間」を想起させる項目での減少が目立った。これは図2-1-1（p.23）で「総合的な学習の時間」を「好き」と回答する比率が低かったこと（27.1%）と関連していると推測される。

学校の偏差値帯別での結果（表2-1-10）をみると、特徴として次の2点があげられる。

①「パソコンを使ってする勉強」は偏差値55以上の学校群と45未満の学校群で「好き」とする比率が高い。

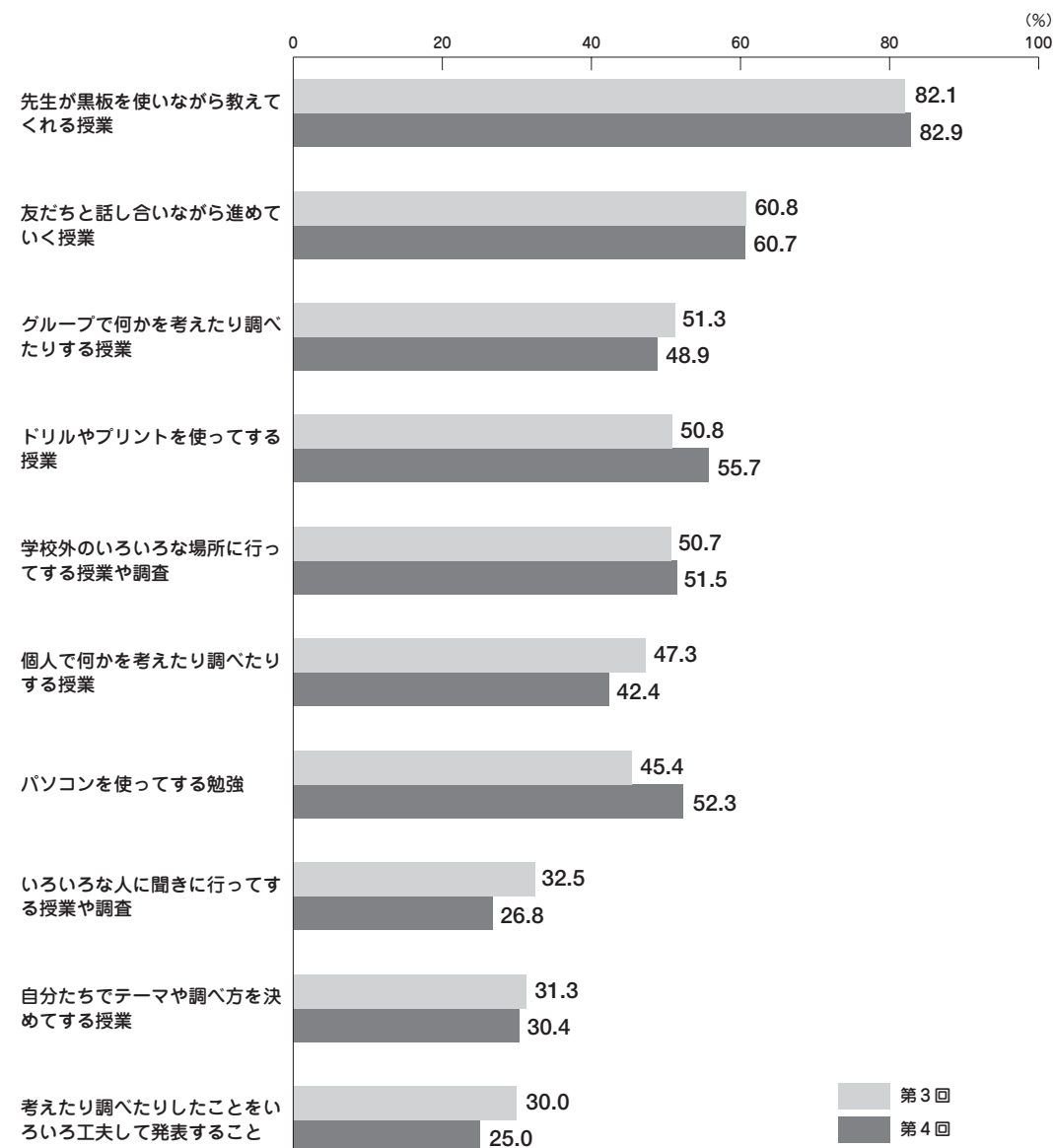
②第3回と比べ減少傾向にあった「個人で何かを考えたり調べたりする授業」「グループで何かを考えたり調べたりする授業」「考えたり調べたりしたことをいろいろな工夫して発表すること」は、45以上50未満の学校群で「好き」とする比率が高い。このことは表2-1-2（p.24）で同学校群の「総合的な学習の時間」を「好き」とする比率が高かったこと（40.3%）とも関連していると考えられる。

ここまでは高校生の主観に基づく学校の勉強方法の好き嫌いについて示してきたが、この質問項目には「やっていない」という選択肢を設けており、高校現場で実施されていないタイプの授業についても検証することができる。そこで学校の偏差値帯別に、学校でやっていない授業・勉強方法について示した（表2-1-11）。全学校群に共通して実施率が低い授業は「いろいろな人に聞きに行っている授業や調査」「学校外のいろいろな場所に行っている授業や調査」であり、実施率が高い授業は「先生が黒板を使いながら教えてくれる授業」「ドリルやプリントを使ってす

る授業」「個人で何かを考えたり調べたりする授業」である。また第3回から第4回にかけて「好き」の比率が増加した「パソコンを使ってする勉強」は、偏差値55以上の学校群と45未満の学校群で実施率が高く、それ以外の学校群では未実施とする回答がほぼ3割前

後である。これは表2-1-10の「パソコンを使ってする勉強」を「好き」と回答する学校群と一致し、「パソコンを使ってする勉強」を実施している学校の高校生ほど、この勉強方法を「好き」と答える関係がみえてくる。

図2-1-6 好きな学校の勉強方法（時系列）



注1) 数値は「とても好き」と「好き」の合計。

注2) 第1回・第2回は該当項目なし。

注3) サンプル数は第3回3,808名、第4回4,464名。

表2-1-10 好きな学校の勉強方法(偏差値帯別)

	(%)				
	偏差値55以上 (1,593)	50以上55未満 (905)	45以上50未満 (416)	45未満 (1,550)	
先生が黒板を使いながら教えてくれる授業	86.3	83.3	81.2	79.4	
個人で何かを考えたり調べたりする授業	43.4	39.7	< 46.2	41.9	
グループで何かを考えたり調べたりする授業	46.9	> 41.9	<< 55.0	53.6	
ドリルやプリントを使ってする授業	59.0	60.8	> 51.6	50.3	
自分たちでテーマや調べ方を決めてする授業	28.9	26.1	< 34.1	33.2	
パソコンを使ってする勉強	56.5	» 40.7	< 47.6	< 56.2	
学校外のいろいろな場所に行っている授業や調査	50.4	> 45.3	< 55.0	55.3	
いろいろな人に聞きに行っている授業や調査	26.1	22.9	27.7	29.6	
友だちと話し合いながら進めていく授業	59.2	55.2	<< 66.8	63.9	
考えたり調べたりしたことをいろいろ工夫して発表すること	28.2	23.3	< 28.3	> 21.9	

注1) 数値は「とても好き」と「好き」の合計。
 注2) «»は10ポイント以上、<>は5ポイント以上差があるもの。
 注3) ()内はサンプル数。

表2-1-11 やっていない授業・勉強方法(偏差値帯別)

	(%)				
	偏差値55以上 (1,593)	50以上55未満 (905)	45以上50未満 (416)	45未満 (1,550)	
先生が黒板を使いながら教えてくれる授業	0.2	0.8	0.2	0.3	
個人で何かを考えたり調べたりする授業	5.7	9.3	6.0	5.0	
グループで何かを考えたり調べたりする授業	6.7	< 15.2	11.3	7.9	
ドリルやプリントを使ってする授業	1.2	2.0	1.2	2.3	
自分たちでテーマや調べ方を決めてする授業	14.7	< 21.0	17.3	> 11.6	
パソコンを使ってする勉強	12.5	<< 32.0	> 26.9	» 13.2	
学校外のいろいろな場所に行っている授業や調査	25.4	28.0	> 22.8	18.9	
いろいろな人に聞きに行っている授業や調査	34.3	34.4	33.4	» 22.9	
友だちと話し合いながら進めていく授業	12.5	15.1	13.7	9.4	
考えたり調べたりしたことをいろいろ工夫して発表すること	10.2	< 18.6	13.9	11.3	

注1) 数値は「やっていない」の比率。
 注2) «»は10ポイント以上、<>は5ポイント以上差があるもの。
 注3) ()内はサンプル数。

2. 家での学習の様子

① 家庭学習の頻度

「ほとんど毎日する(週に6~7日)」(22.5%)は前回まで減少傾向にあったものの下げ止まった一方で、「家ではほとんど勉強しない」と答えた高校生は引き続き増加傾向がみられ、第1回の17.3%から27.9%に推移している。高校生の家庭学習からの離脱はさらに進行しているようだ。

Q 家での勉強についてうかがいます(学習塾や予備校、家庭教師との学習は除きます)。
 あなたはふだん、家でどのくらい勉強をしますか。

高校生の家庭での学習習慣を、まず学習の頻度という側面からみていく。学習の頻度については、学習塾や予備校、家庭教師との学習以外に家で週何日くらい勉強するかをたずねた。

結果を全体としてみると(図2-1-7)、「ほとんど毎日する(週に6~7日)」が22.5%、「週に半分以上はする(4~5日)」が20.3%であり、両者を合わせると4割強が週に4日以上学習する習慣を持っていることになる。他方、「家ではほとんど勉強しない」と答えた高校生は27.9%と4人に1人以上を占める。

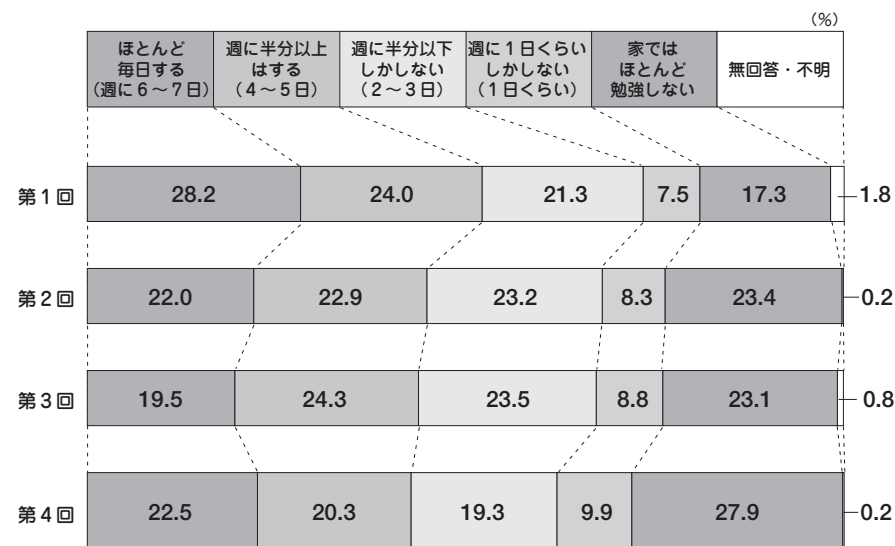
これを時系列でみると、「ほとんど毎日する」は前回まで減少傾向にあったものが下げ止まった一方で、「家ではほとんど勉強しない」と答えた高校生は増加傾向が続き、27.9%に推移している。家庭における学習頻度が

増加している中学生とは異なり、高校生の家庭学習からの離脱がさらに進行しているとみられる(『第4回学習基本調査・国内調査報告書・中学生版』参照)。

家庭での学習頻度は、学校の偏差値帯によって大きく異なっている(図2-1-8)。偏差値55以上の学校群では、「ほとんど毎日する」と回答した者が42.7%、「週に半分以上はする」者は27.9%であり、7割近くが少なくとも4日以上は家庭で学習する傾向がみられ、「家ではほとんど勉強しない」者は1割程度である。

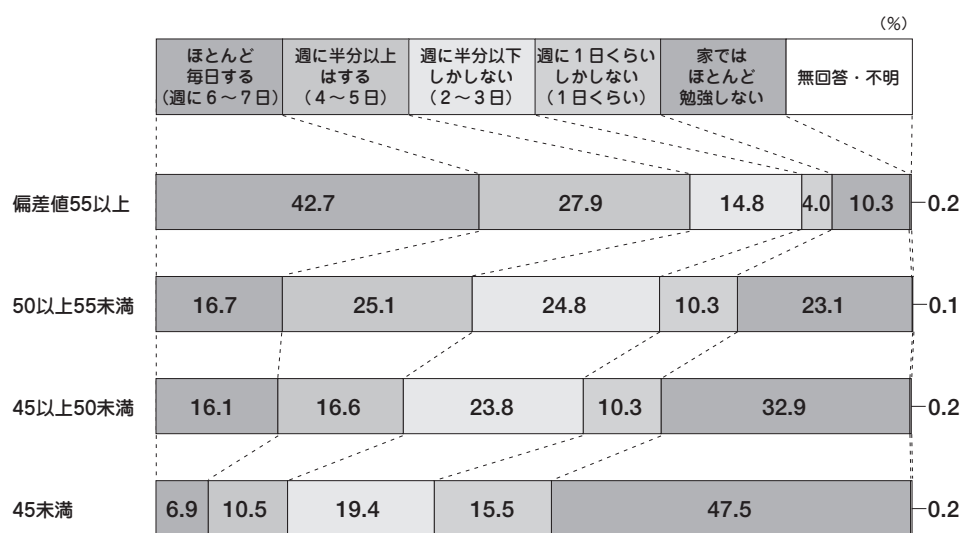
一方、偏差値45未満の学校群では、「家ではほとんど勉強しない」と回答した者が47.5%と最も多く、約半数の高校生が家で学習する習慣を持っていない様子が見える。

図2-1-7 家庭学習の頻度(時系列)



注) サンプル数は第1回2,005名、第2回2,615名、第3回3,808名、第4回4,464名。

図2-1-8 家庭学習の頻度(偏差値帯別)



注) サンプル数は偏差値55以上1,593名、50以上55未満905名、45以上50未満416名、45未満1,550名。

② 学校外での学習時間

「ほとんどしない」と「およそ30分」を合わせると39.5%となり、およそ4割が多くても30分くらいしか勉強していないことがわかる。学校の偏差値帯別に学習の平均時間をみると、偏差値55以上の学校群で105.1分、50以上55未満は60.3分、45以上50未満は62.0分、45未満は43.2分と、偏差値55以上と45未満の学校群では約1時間の差がある。

- Q** 家での勉強時間などについてうかがいます。
- あなたはふだん(月曜日~金曜日)、学校での授業以外に1日にだいたい何時間くらい勉強していますか。学習塾や予備校、家庭教師について勉強する時間も含めてください。
 - その勉強時間のうち、学校の宿題や課題をする時間は何時間くらいですか。
 - 休日には、家で何時間くらい勉強しますか。学習塾や家庭教師について勉強する時間も含めてください。
 - ふだん(月曜日~金曜日)テレビを1日に何時間くらい見ますか。

家での学習に、学習塾や予備校、家庭教師との学習時間を含めると、家ではあまり勉強しないが塾や予備校、家庭教師について勉強しているなど、新たな側面がみえてくる可能性がある。そこで、学校外での学習時間(学習塾や予備校、家庭教師との学習時間を含む)についてもたずねた。

高校生の1日の学習時間をみたのが図2-1-9である。全体としてみると、「ほとんどしない」が24.3%、「およそ30分」が15.2%であり、両者を合わせるとおよそ4割が多くても30分くらいしか勉強していないことになる。時系列的にみると「30分以下」の比率(「ほとんどしない」+「およそ30分」の%)は、第1回と比べて26.0%から39.5%へと増加傾向にある。

学校の偏差値帯別にみてみよう(図2-1-10)。偏差値55以上の学校群では「ほとんどしない」7.7%、「およそ30分」9.1%で、両者を合わせた割合は2割に達しない。他方、45未満の学校群では「ほとんどしない」43.0%、

「およそ30分」17.6%で、合わせると6割にもなる。さらに、学習時間の平均をみると、この差は一層顕著になる。偏差値55以上の学校群で105.1分、50以上55未満は60.3分、45以上50未満は62.0分、45未満は43.2分と、偏差値55以上と45未満の学校群では約1時間の差が生じている。

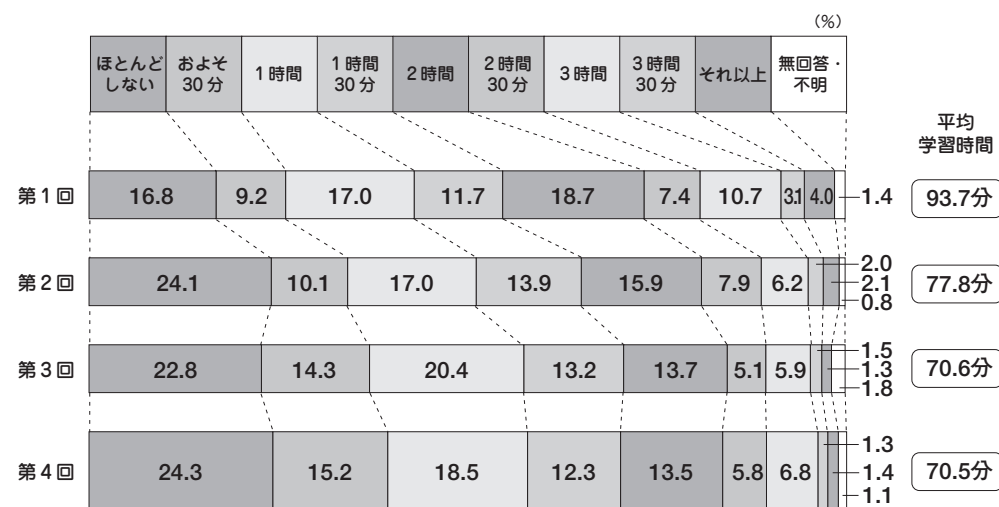
図2-1-11は、平日の学習時間のほか、休日の学習時間、平日のテレビ視聴時間、そして平日の学習時間に占める宿題や課題をする時間(以下、宿題時間)をたずねた結果である。平均値はそれぞれ、平日の学習時間は70.5分、そのうち宿題時間は45.7分、休日の学習時間は92.0分、平日のテレビ視聴時間は102.6分となっている。ただし、学習時間にしてもテレビ視聴時間にしても、「ほとんどしない(見ない)」から「それ(3時間30分)以上」という回答まで、ちらばりが非常に大きいため、もう少し詳細にみる必要があるようだ。

そこで、表2-1-12にそれぞれの平均時

間を学校の偏差値帯別に示す。偏差値55以上の学校群では、平日の学習時間105.1分、宿題時間64.0分、休日の学習時間142.5分、テレビ視聴時間83.7分である。他方、45未満の学校群では、平日の学習時間43.2分、宿題時間32.5分、休日の学習時間52.7分、テレビ視聴

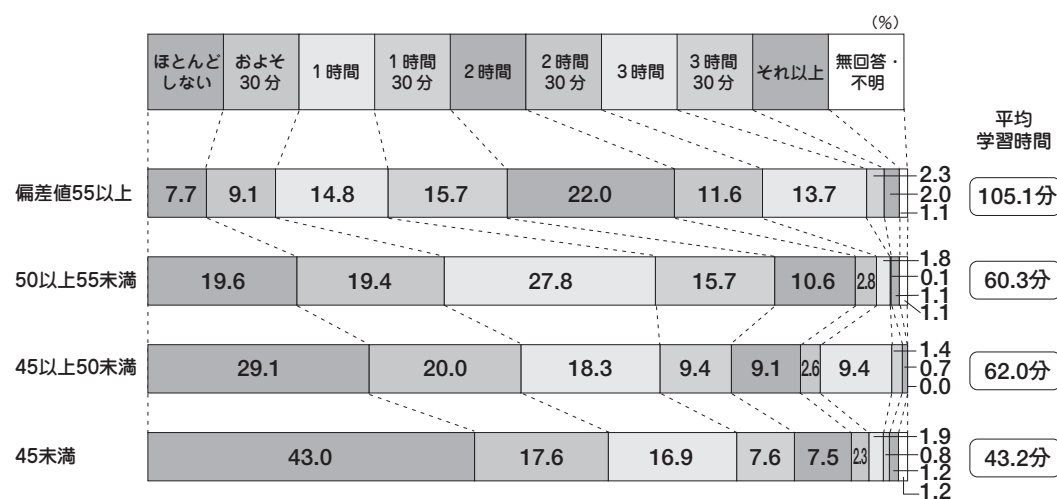
時間123.6分である。偏差値55以上の学校群の高校生は、テレビ視聴の時間もある程度確保しながら、学習時間にかかる時間は45未満の学校群の高校生に大きく差をつけている。とくに休日の学習時間には1時間半くらいの差が出ている。

図2-1-9 平日の学習時間(時系列)



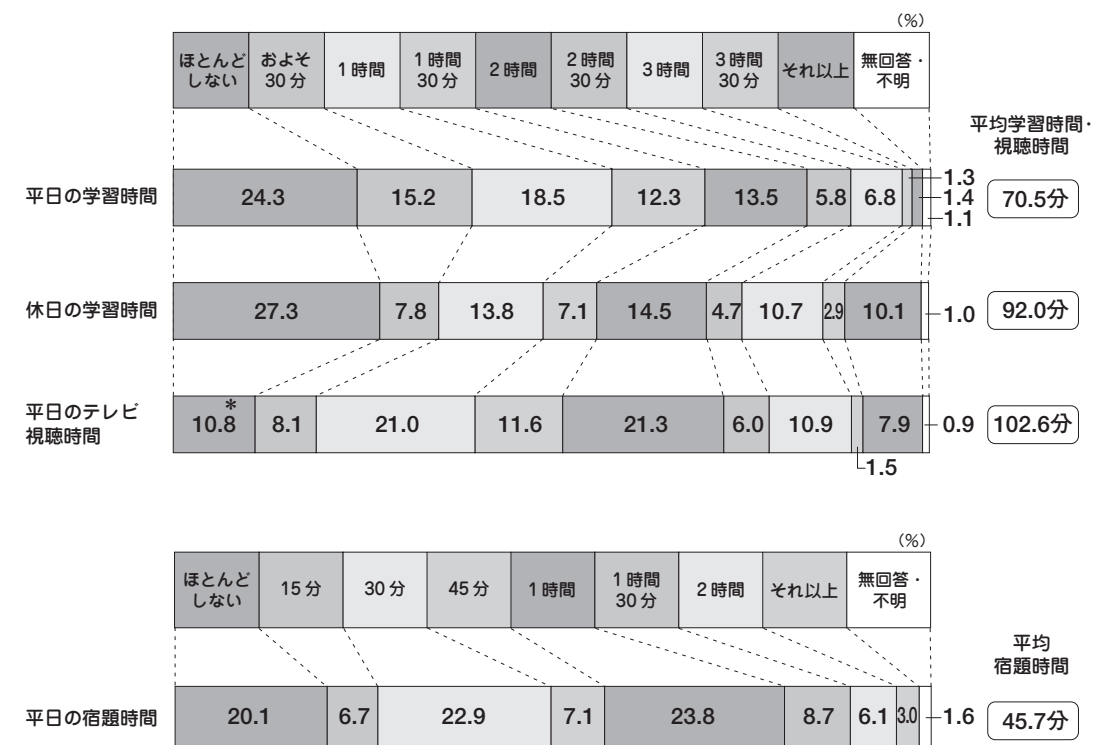
注1) 平均学習時間は、「ほとんどしない」を0分、「3時間30分」を210分、「それ以上」を240分のように置き換えて算出した。ただし無回答・不明は算出の際除いている。
注2) サンプル数は第1回2,005名、第2回2,615名、第3回3,808名、第4回4,464名。

図2-1-10 平日の学習時間(偏差値帯別)



注1) 平均学習時間の算出方法は図2-1-9と同様。
注2) サンプル数は偏差値55以上1,593名、50以上55未満905名、45以上50未満416名、45未満1,550名。

図2-1-11 学習時間・テレビ視聴時間・宿題時間(全体)



注1) *は「ほとんど見ない」。
注2) 平均学習時間および平均視聴時間の算出方法は図2-1-9と同様。平日の宿題時間の平均は、「ほとんどしない」を0分、「2時間」を120分、「それ以上」を150分のように置き換えて算出した。ただし無回答・不明は算出の際除いている。
注3) サンプル数は4,464名。

表2-1-12 学習時間・宿題時間・テレビ視聴時間の平均値(偏差値帯別)

	平日の学習時間	平日の宿題時間	休日の学習時間	平日のテレビ視聴時間
偏差値55以上	105.1	64.0	142.5	83.7
50以上55未満	60.3	38.9	76.4	102.0
45以上50未満	62.0	38.9	78.5	98.2
45未満	43.2	32.5	52.7	123.6

注1) 各平均値の算出方法は図2-1-11と同様。
注2) サンプル数は偏差値55以上1,593名、50以上55未満905名、45以上50未満416名、45未満1,550名。

③ テスト勉強の開始時期

テスト勉強の開始時期は「1週間くらい前から」が36.4%と一番多く、次に「10日くらい前から」16.8%が続く。1週間くらい前に始めるのが一般的であるようだ。また、偏差値55以上の学校群ではテストへの準備が早いのに対し、45未満の学校群では準備が遅いようだ。

Q | テスト(定期考査)前には、あなたはいつ頃からテスト勉強を始めますか。

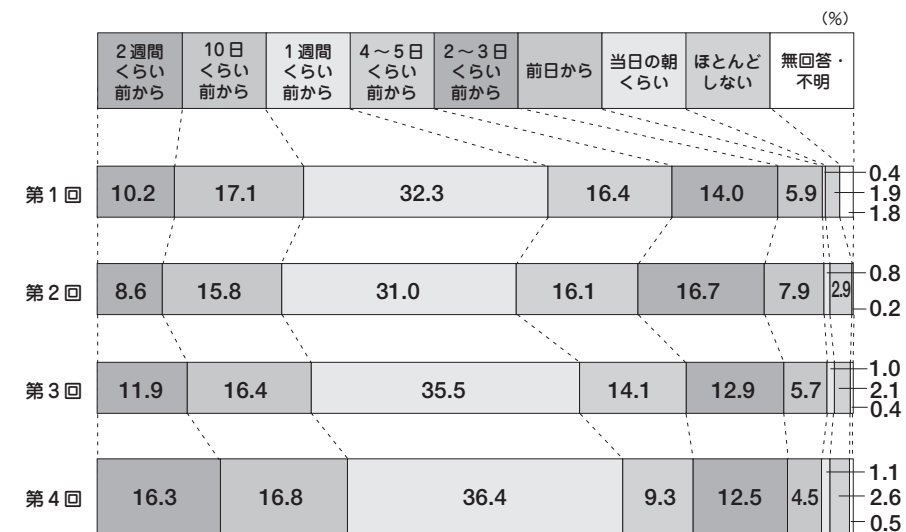
高校生はいつ頃からテスト(定期考査)勉強を始めるのだろうか。全体的にみると、「1週間くらい前から」が36.4%と一番多く、次に「10日くらい前から」16.8%が続く。「前日から」「当日の朝くらい」「ほとんどしない」という回答は少数派であり、1週間くらい前に始めるのが一般的なようだ(図2-1-12)。

結果を時系列にみると、「2週間くらい前から」という高校生が16.3%と、第3回に比べて4.4ポイント増えている。わずかではあるが、テスト勉強の開始時期が早まっているといえる。

学校の偏差値帯別にみると(図2-1-13)、いずれの学校群でも「1週間くらい前

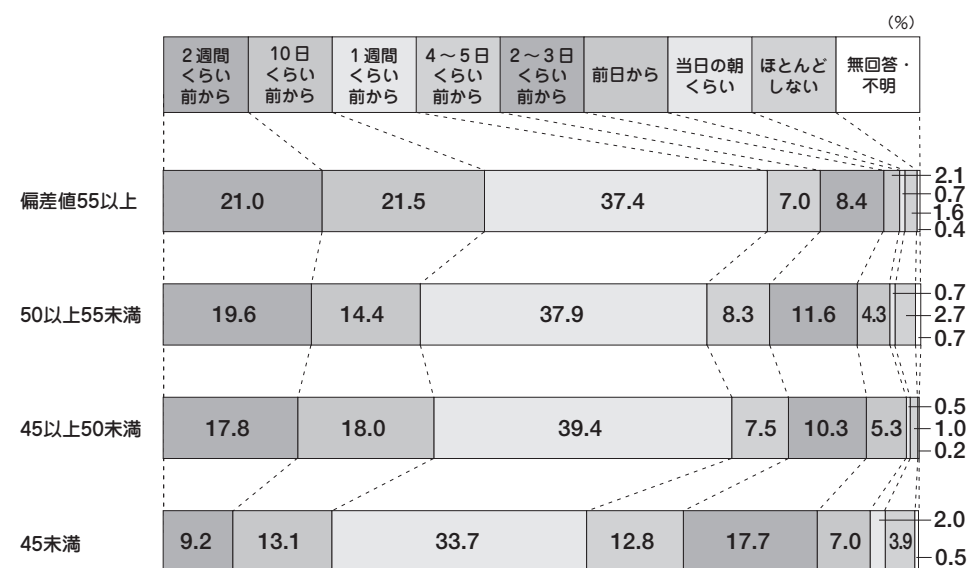
から」という回答は3~4割程度であるが、偏差値55以上の学校群では、10日以上前から準備する高校生(「2週間くらい前から」+「10日くらい前から」の%)が42.5%に対して、45未満の学校群では22.3%である。逆に、準備するにしても間近にならないとしない高校生(「4~5日くらい前から」+「2~3日くらい前から」+「前日から」+「当日の朝くらい」+「ほとんどしない」の%)は偏差値55以上の学校群では19.8%であるのに対し、45未満の学校群では43.4%を占める。偏差値55以上の学校の高校生はテストへの準備が早いのに対し、45未満の学校の高校生は準備が遅いといえよう。

図2-1-12 テスト勉強の開始時期(時系列)



注) サンプル数は第1回2,005名、第2回2,615名、第3回3,808名、第4回4,464名。

図2-1-13 テスト勉強の開始時期(偏差値帯別)



注) サンプル数は偏差値55以上1,593名、50以上55未満905名、45以上50未満416名、45未満1,550名。

④ 家での学習内容

家での学習内容の中心になっているのは、「学校の宿題」86.4%および「学校の授業の予習」56.5%である。また、復習よりも予習中心の傾向にある。学校の偏差値帯別にみると、「学校の宿題」以外の項目では学校群によって大きな差がみられ、偏差値が高い学校群の高校生ほど宿題以外の学習にもより多く取り組んでいる。

Q | 家では主にどんな勉強をしていますか。

ここまで家庭の学習について、主として量的な側面（家庭学習の頻度や時間）に注目してきたが、ここでは家庭学習の内容や意識・態度といった、質的な側面を検討していく。まずとりあげるのは、家での学習内容である。8つの選択肢を用意し、複数回答を求めている。

表2-1-13をみると、家での学習内容でもっとも多いのは「学校の宿題」の86.4%で、次に「学校の授業の予習」56.5%が続く。この2つが高校生の家庭学習の中心となり、それ以外はすべて半数に満たない。また、「学校の授業の予習」は「学校の授業の復習」34.7%と比べて21.8ポイントも高くなっており、予習中心の家庭学習が特徴といえる。

しかし時系列で変化をみると、「学校の授業の予習」は第3回の64.5%より8.0ポイント減少し、予習中心の傾向は第1回調査時の水準に戻っている。一方で、「学校の宿題」は第3回から5.0ポイント増加している。高校生の家庭学習においては、学校から出される

宿題が中心になっている様子がうかがえる。

ただし、学校の偏差値帯別に結果を比較すると大きな差が生じていることに注意が必要である（表2-1-14）。「学校の宿題」はいずれの学校群でも共通して8割以上の高校生が「あてはまる」と回答している。しかし、それ以外の項目では偏差値の高い学校群と低い学校群の間に大きな差異が認められる。とくに、「学校の授業の予習」は41.7ポイント（偏差値55以上77.7%＞45未満36.0%、以下同）、「学校の授業の復習」は17.5ポイント（42.7%＞25.2%）の開きがある。そのほかにも、「塾や予備校の授業の予習・復習」（13.7%＞4.8%）、「通信教育」（11.9%＞6.1%）、「書店などで売っている問題集・参考書」（15.8%＞5.7%）の3項目で、偏差値55以上と45未満の学校群の間に5ポイント以上の差異がみられた。高い偏差値帯の学校群の高校生ほど、宿題以外の学習にもより多く取り組んでいることがわかる。

表2-1-13 家での学習内容（時系列）

	(%)			
	第1回 (2,005)	第2回 (2,615)	第3回 (3,808)	第4回 (4,464)
学校の宿題	80.0	81.1	81.4	< 86.4
学校の授業の予習	55.1	59.2	< 64.5	> 56.5
学校の授業の復習	36.7	39.1	> 33.6	34.7
塾や予備校の授業の予習・復習*	4.5	6.5	6.2	9.8
通信教育	10.9	9.8	12.8	9.9
宅配の家庭学習教材	3.3	2.1	1.2	0.6
書店などで売っている問題集・参考書	—	10.2	10.5	10.1
その他	3.1	2.6	3.3	2.2

注1) 複数回答。
 注2) <>は5ポイント以上差があるもの。
 注3) —は該当項目なし。
 注4) *は第1回・第2回は「塾や予備校の授業の予習」と「塾や予備校の授業の復習」の合計。
 注5) ()内はサンプル数。

表2-1-14 家での学習内容（偏差値帯別）

	(%)				
	偏差値55以上 (1,593)	50以上55未満 (905)	45以上50未満 (416)	45未満 (1,550)	偏差値55以上と 45未満の差
学校の宿題	87.7	84.5	86.3	86.1	1.6
学校の授業の予習	77.7	58.5	47.1	36.0	41.7
学校の授業の復習	42.7	35.8	37.3	25.2	17.5
塾や予備校の授業の予習・復習	13.7	12.6	7.7	4.8	8.9
通信教育	11.9	11.7	12.7	6.1	5.8
宅配の家庭学習教材	0.8	0.3	1.2	0.5	0.3
書店などで売っている問題集・参考書	15.8	8.3	9.1	5.7	10.1
その他	1.9	2.1	1.7	2.6	-0.7

注1) 複数回答。
 注2) ()内はサンプル数。

⑤ 家での学習の様子

「出された宿題をきちんとやっていく」(81.8%)を筆頭に、家での学習態度について肯定的な回答が目立つ。一方で、ほとんどの項目において学校の偏差値帯による顕著な差異がみられ、学習態度の二極化の問題が懸念される。

Q | 家での勉強の様子についてうかがいます。

高校生の家庭での学習態度をみてみよう。表2-1-15は、家での学習の様子についてたずねた項目で、「あてはまる」(「あてはまる」+「まああてはまる」の%、以下同)比率を示したものである。

7割以上の高校生が「あてはまる」と回答したのは、「出された宿題をきちんとやっていく」81.8%、「家族に言われなくても自分から進んで勉強する」70.3%の2項目である。つづいて6割以上が「あてはまる」と回答した項目として、「嫌いな科目の勉強も一生懸命する」66.4%、「自分で興味を持ったことを、学校の勉強に関係なく調べる」62.1%があげられる。

また、「予習をしてから授業を受ける」高校生が56.0%いるのに対して、「授業で習ったことは、その日のうちに復習する」はその半分にも満たない26.7%である。「④家での学習内容」(p.46~47参照)でみた結果と同様に、ここでも予習中心の家庭学習をしている傾向が認められる。

学校の偏差値帯別にみると、12項目中10項目で、偏差値の高い学校群と低い学校群との間に5ポイント以上の差異がみられる。もっとも差が大きいのは、「予習をしてから授業を受ける」(偏差値55以上75.9%>45未満36.6%、以下同)で、40ポイント近い開きがある。ほかにも「テストで間違えた問題をやり直す」(66.3%>43.2%)、「家族に言われなくても自分から進んで勉強する」(79.2%>61.2%)、「『勉強は学校だけですればいい』と思う」(偏差値45未満54.0%>55以上24.1%)

などで、偏差値55以上の学校群と45未満の学校群の間に15ポイント以上の大きな差異がみられる。

このように、学校の偏差値帯別で差が生じた項目が複数にわたった点は、第3回で差がみられた項目が1つしかなかった(「『勉強は学校だけですればいい』と思う」のみ)のとは顕著な違いであり、家庭学習のあり方に関して、二極化の問題が懸念される。しかし一方で、「出された宿題をきちんとやっていく」については、いずれの学校群においても8割程度の高校生が「あてはまる」と回答している。このことから、出された宿題に対しては多くの高校生がきちんと取り組むものの、自主的に進めなくてはならない勉強に関しては、学校群によって二極化が生じているというのが、現在の高校生の特徴といえよう。

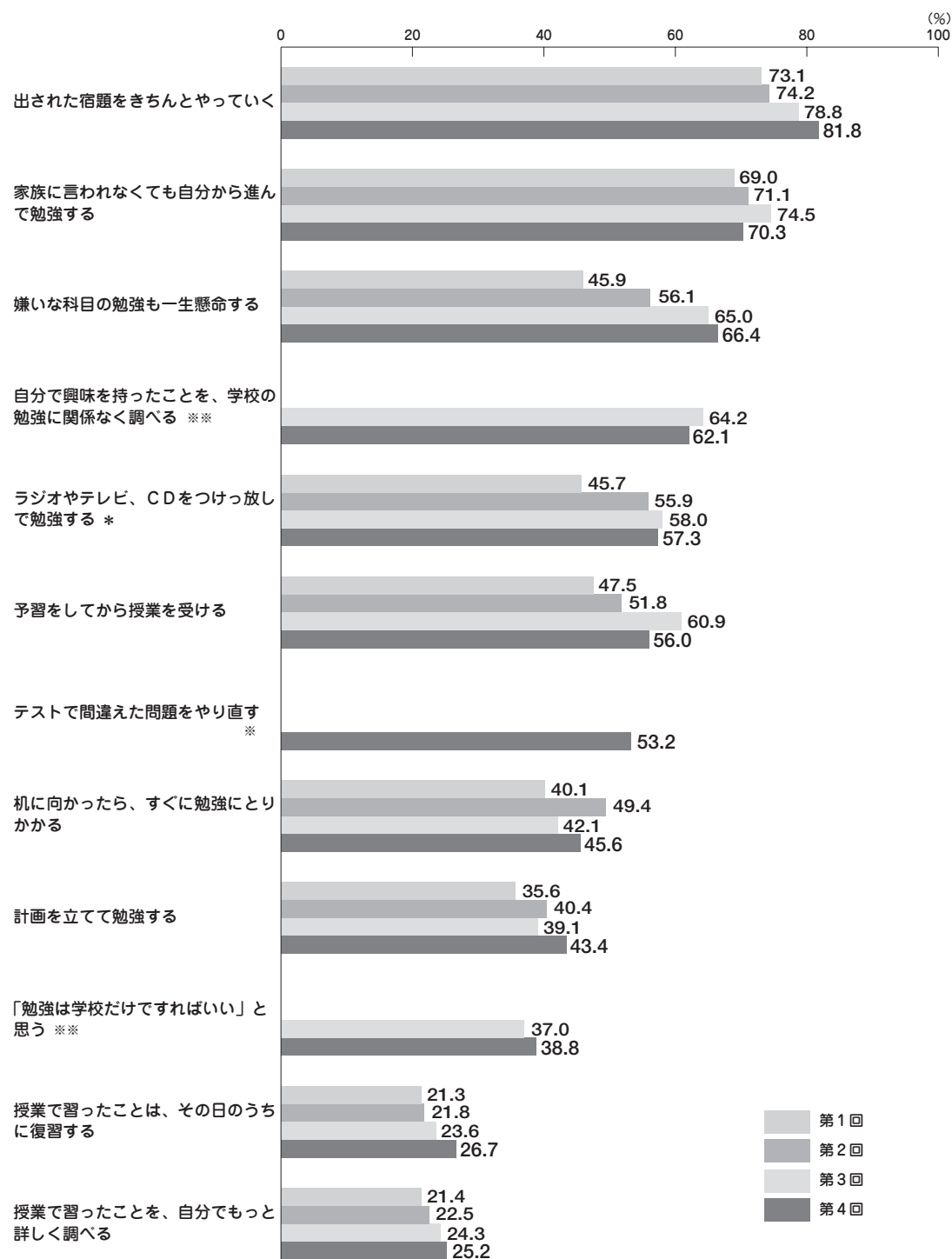
時系列で結果をみると(図2-1-14)、全体の傾向としては、第1回からの16年間で「あてはまる」と回答している比率が増加している項目が多い。具体的には、「嫌いな科目の勉強も一生懸命する」(第1回45.9%→第4回66.4%、以下同)、「出された宿題をきちんとやっていく」(73.1%→81.8%)、「予習をしてから授業を受ける」(47.5%→56.0%)、「計画を立てて勉強する」(35.6%→43.4%)、「授業で習ったことは、その日のうちに復習する」(21.3%→26.7%)といった項目があげられる。他方、「ラジオやテレビ、CDをつけっ放して勉強する」ような「ながら勉強」も第2回以降、6割程度と高めの水準が続いている。

表2-1-15 家での学習の様子(全体・偏差値帯別)

	(%)					
	全体 (4,464)	偏差値55以上 (1,593)	50以上55未満 (905)	45以上50未満 (416)	45未満 (1,550)	偏差値55以上と 45未満の差
出された宿題をきちんとやっていく	81.8	81.8	82.8	83.7	80.6	1.2
家族に言われなくても自分から進んで勉強する	70.3	79.2	72.0	66.1	61.2	18.0
嫌いな科目の勉強も一生懸命する	66.4	72.8	66.2	66.6	60.0	12.8
自分で興味を持ったことを、学校の勉強に関係なく調べる	62.1	62.6	62.4	65.4	60.6	2.0
ラジオやテレビ、CDをつけっ放して勉強する	57.3	50.4	55.8	59.9	64.5	-14.1
予習をしてから授業を受ける	56.0	75.9	56.2	51.7	36.6	39.3
テストで間違えた問題をやり直す	53.2	66.3	46.1	56.7	43.2	23.1
机に向かったら、すぐに勉強にとりかかる	45.6	51.3	46.4	44.5	39.4	11.9
計画を立てて勉強する	43.4	46.4	43.3	42.3	40.6	5.8
「勉強は学校だけですればいい」と思う	38.8	24.1	36.4	44.2	54.0	-29.9
授業で習ったことは、その日のうちに復習する	26.7	33.0	26.3	28.8	19.9	13.1
授業で習ったことを、自分でもっと詳しく調べる	25.2	29.2	25.6	22.6	21.5	7.7

注1) 数値は「あてはまる」と「まああてはまる」の合計。
注2) ()内はサンプル数。

図2-1-14 家での学習の様子(時系列)



注1) 数値は「あてはまる」と「まああてはまる」の合計。
 注2) *第1回は「ラジオやテレビをつけっ放しで勉強する」。
 注3) ※は第1回~第3回に該当項目なし。※※は第1回・第2回に該当項目なし。
 注4) サンプル数は第1回2,005名、第2回2,615名、第3回3,808名、第4回4,464名。

⑥ 日常生活の中での「学習」

日常生活の中での「学習」で、もっとも多いのは「読みたい本を本屋で探して買う」61.0%で、つづいて「文学作品や小説・物語を読む」の52.7%である。一方で、「美術館や博物館に行く」「自然や動物・植物の本を読む」は1割程度と少ない。

Q | あなたは、ふだん(学校の授業や宿題以外で)次のことをどのくらいしますか。

これまでは、学校での勉強やそれを補うかたちでの家庭学習について分析してきた。しかし、読書や美術館・博物館の見学といったさまざまな体験もまた、広義の「学習」としてとらえることができるだろう。ここでは、高校生がそのような日常生活の中での「学習」をどの程度行っているのか、調査結果をみていきたい。

表2-1-16は、それぞれの「学習」の頻度(「よくする」+「時々する」の%、以下同)を示したものである。半数以上が回答したのは、「読みたい本を本屋で探して買う」61.0%、「文学作品や小説・物語を読む」52.7%の2項目のみである。一方で、「美術館や博物館に行く」11.4%、「自然や動物・植物の本を読む」14.4%は1割程度と少ない。

時系列で見ると(図2-1-15)、とくに第1回からの変化が目立つのが「新聞のニュース欄を読む」である。第3回の調査時にも大幅な減少が指摘されたが、今回もさらに減

少している。第1回71.6%→(第2回は該当項目なし)→第3回52.7%→第4回48.5%と推移し、16年間で23.1ポイント減少している。第4回の48.5%という頻度は、小学生(45.5%)や中学生(43.9%)と同程度である(『第4回学習基本調査・国内調査報告書・小学生版』『同報告書・中学生版』参照)。小学生や中学生はそれぞれの学校段階に合わせて発行された新聞を読んでいる可能性もあるものの、この結果からは高校生の顕著な新聞離れが指摘できるだろう。

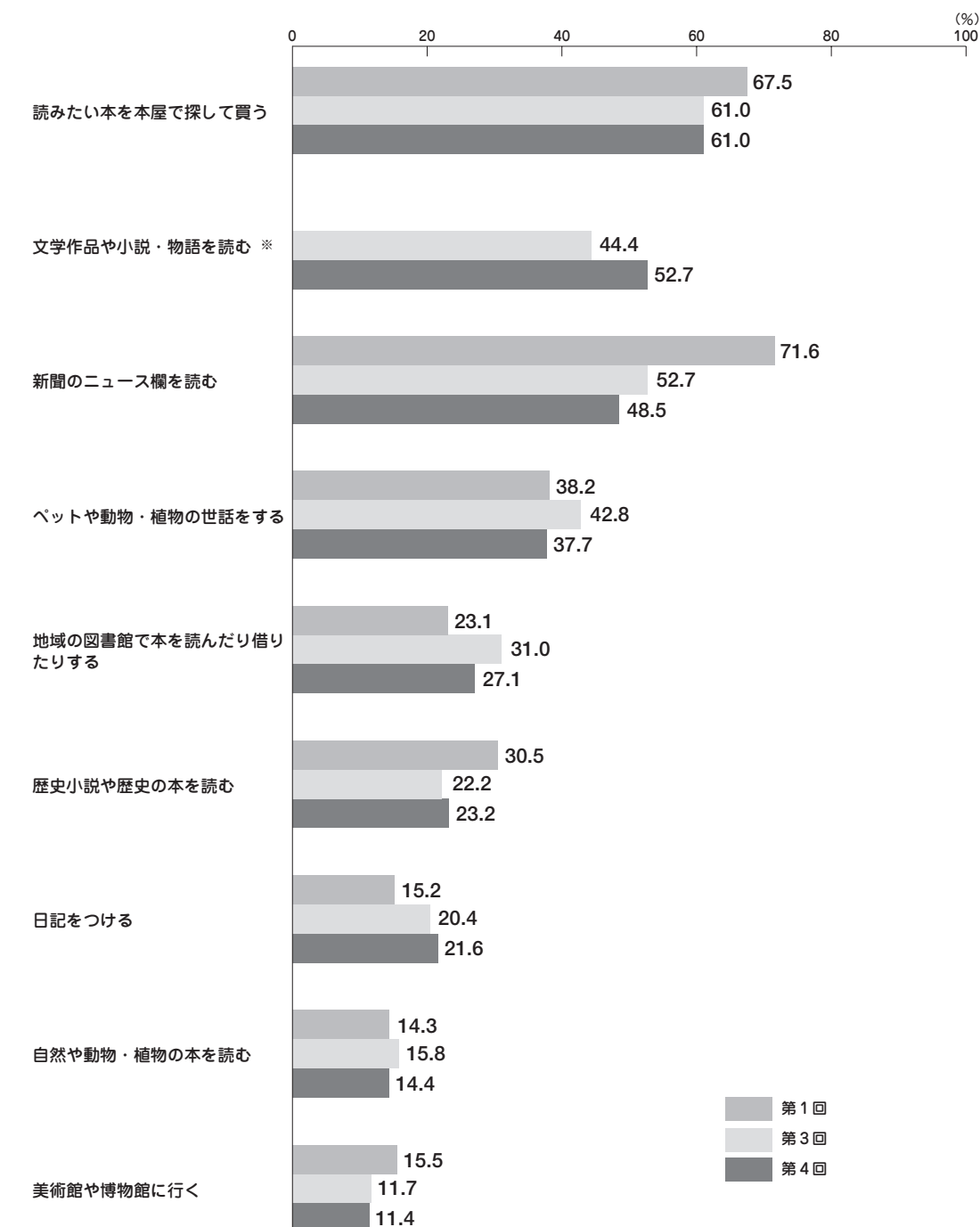
性別で見ると(表2-1-16)、全般的に女子の「学習」の頻度が高い。とくに「日記をつける」(女子32.9%>男子10.0%、以下同)、「文学作品や小説・物語を読む」(60.6%>44.3%)、「読みたい本を本屋で探して買う」(68.5%>53.1%)の3項目では、15ポイント以上の開きがある。逆に男子のほうが目立って多いのは、「歴史小説や歴史の本を読む」(男子26.2%>女子20.0%)のみとなっている。

表 2-1-16 日常生活の中での「学習」(全体・性別)

	(%)		
	全体 (4,464)	男子 (2,168)	女子 (2,269)
読みたい本を本屋で探して買う	61.0	53.1	68.5
文学作品や小説・物語を読む	52.7	44.3	60.6
新聞のニュース欄を読む	48.5	48.9	48.0
ペットや動物・植物の世話をする	37.7	31.3	43.8
地域の図書館で本を読んだり借りたりする	27.1	20.3	33.6
歴史小説や歴史の本を読む	23.2	26.2	20.0
日記をつける	21.6	10.0	32.9
自然や動物・植物の本を読む	14.4	15.3	13.6
美術館や博物館に行く	11.4	7.6	14.9

注1) 数値は「よくする」と「時々する」の合計。
 注2) <>は10ポイント以上、<>は5ポイント以上差があるもの。
 注3) () 内はサンプル数。

図 2-1-15 日常生活の中での「学習」(時系列)



注1) 数値は「よくする」と「時々する」の合計。
 注2) ※は第1回に該当項目なし。
 注3) 第2回はいずれも該当項目なし。
 注4) サンプル数は第1回2,005名、第3回3,808名、第4回4,464名。

⑦ 家庭環境

親の高学歴化が進んでいる。「親は私にいい大学に行くことを期待している」「ほとんど毎日、親は私に『勉強しなさい』と言う」といった、親からの学歴期待や勉強へのプレッシャーについては、男子のほうが強く感じている。

Q | あなたの家のことについてうかがいます。

さまざまなかたちで「家での学習の様子」に影響をもたらす、家庭環境についてもみておこう。

表2-1-17は、家庭環境のうち、親とのかかわりに関する項目の結果をまとめたものである。まず、全般的な高学歴化を反映して、親の学歴が高くなっている。「お父さんは大学を卒業している」の比率は第1回の29.0%から第4回の51.7%へ、「お母さんは大学や短期大学を卒業している」の比率は18.2%から46.0%へと、大幅に増加している。

親とのかかわりで「あてはまる」と回答した高校生が多いのは、「お母さんは私の成績をよく知っている」74.4%、「親とよく話をする」68.2%の2項目である。「親とよく話をする」については第1回・第2回ではたずねていないものの、第3回(63.3%)からは5ポイント程度増加している。

性別での特徴をみると、親とのかかわりについては、多くの項目で差がみられる。「親とよく話をする」(女子75.1%>男子61.0%、以下同)、「親に博物館や美術館に連れていっ

てもらったことがある」(45.3%>32.9%)では、女子のほうが10ポイント以上高くなっている。一方で、「親は私にいい大学に行くことを期待している」(男子43.1%>女子33.0%、以下同)、「ほとんど毎日、親は私に『勉強しなさい』と言う」(21.8%>16.7%)では男子のほうが高い。親からの学歴期待や勉強へのプレッシャーについては、男子のほうが強く感じている傾向にあるといえる。

また、今回から新たにたずねている項目「自分専用のパソコンを持っている」は14.3%、「自分専用の携帯電話を持っている」は94.3%であった(表2-1-18)。とくに携帯電話は、同様の質問をしている小学生(所有率20.8%)、中学生(同36.8%)と比較しても圧倒的に多く(『第4回学習基本調査・国内調査報告書・小学生版』『同報告書・中学生版』参照)、性別や地域別などの属性にかかわらず、9割以上が所有している。なかでも女子の所有率は97.0%と、ほぼ今回の回答者全員にせまる数字になっている。

表2-1-17 親とのかかわりについて(時系列・性別)

	第1回 (2,005)	第2回 (2,615)	第3回※ (3,453)	第4回 (4,464)	(%)	
					男子 (2,168)	女子 (2,269)
家には本(マンガや雑誌以外)がたくさんある	53.4	54.6	51.5	56.4	56.6	56.0
親は毎日、新聞を読んでいる	—	—	—	75.2	75.1	75.2
ほとんど毎日、親は私に「勉強しなさい」と言う	22.1	20.7	16.2	19.2	21.8 >	16.7
この1か月の間に、親に勉強をみてもらったことがある	—	—	7.9	8.8	6.3	11.2
親は私にいい大学に行くことを期待している	—	—	—	37.9	43.1 >>	33.0
親とよく話をする	—	—	63.3	68.2	61.0 <<	75.1
お母さんは私の成績をよく知っている	72.2	66.4	72.2	74.4	71.6 <	77.0
お父さんは私の成績をよく知っている	45.5	42.0	45.1	46.7	49.9 >	43.7
親に博物館や美術館に連れていってもらったことがある	38.0	38.8	37.9	39.2	32.9 <<	45.3
お父さんは大学を卒業している	29.0	35.2	45.6	51.7	52.9	50.5
お母さんは大学や短期大学を卒業している	18.2	26.0	37.9	46.0	46.2	45.9

注1) 複数回答。
 注2) —は該当項目なし。
 注3) 性別で<>は10ポイント以上、<>は5ポイント以上差があるもの。
 注4) ※第3回では全員が全選択肢を無回答とした学校を除いて集計している。
 注5) ()内はサンプル数。

表2-1-18 携帯電話・パソコンの所有率(全体・性別・地域別)

	全体 (4,464)	性別		大都市 (1,376)	地方都市 (1,852)	郡部 (1,236)
		男子 (2,168)	女子 (2,269)			
自分専用のパソコンを持っている	14.3	17.3 >	11.4	16.0	14.3	12.5
自分専用の携帯電話を持っている	94.3	91.5 <	97.0	94.5	93.8	94.7

注1) 複数回答。
 注2) 性別で<>は5ポイント以上差があるもの。
 注3) ()内はサンプル数。

3. 学校外の学習機会

① 学習塾・予備校の利用

放課後や日曜日に学習塾、予備校に通っているのは、時系列でみると第1回から一貫して増加しており、第4回では25.3%と4人に1人が利用している結果となった。塾の種類は「進学塾」がほぼ5割、「補習塾」が4割程度である。また週あたりの通塾日数は「2日」が38.8%と最も多く、8割ほどが3日以内となっている。

Q あなたは今、放課後や休日に、学習塾や予備校へ行っていますか（そろばん、習字などの塾は除きます。自習教室は含めます）。
【行っている人にうかがいます】

- 週に何日行っていますか。
- あなたの行っているのは、どんな学習塾（予備校）ですか。

本項では、高校生の学校以外での学習機会について、「学習塾や予備校」「通信教育」「家庭学習教材」「家庭教師」などの利用度をたずねた。

まず学習塾や予備校の利用率の時系列変化を図2-1-16に示した。第1回から比較すると、通塾率は一貫して増加しており、第4回では25.3%と4人に1人が利用している結果となった。しかし学校段階別の通塾状況を図2-1-17に示したが、これによると高校生の通塾率は小学生・中学生に比べ、依然として相対的に低いことが確認できる。このことから、高校生の学校外での学習機会は増加しつつも、学校または家庭での学習が中心である傾向は続いているといえる。

では学習塾や予備校に通っている場合、どのような塾にどのくらいの頻度で通塾しているのだろうか。表2-1-19に週あたりの通塾日数と学習塾の種類について時系列でまとめた。まず週あたりの通塾日数では、第1回から第4回まで「2日」とする比率が高いものの、第2回から第4回にかけてその比率は減少している。一方、「週4日以上」（「4日」+「5日」+「6日」+「7日（毎日）」

の%、以下同)の通塾率をみると、第1回6.7%→第2回7.9%→第3回8.9%→第4回14.3%と推移し、第3回から第4回にかけては5.4ポイント増加している。学習塾（予備校）の種類は、第1回から第4回を通じて「大学や短期大学を受験するための進学塾（以下、進学塾）」の比率がもっとも高く、第4回ではほぼ半数を占める。他方「学校の勉強がわかるようになるための補習塾（以下、補習塾）」も第1回から第4回までほぼ4割を占めている。

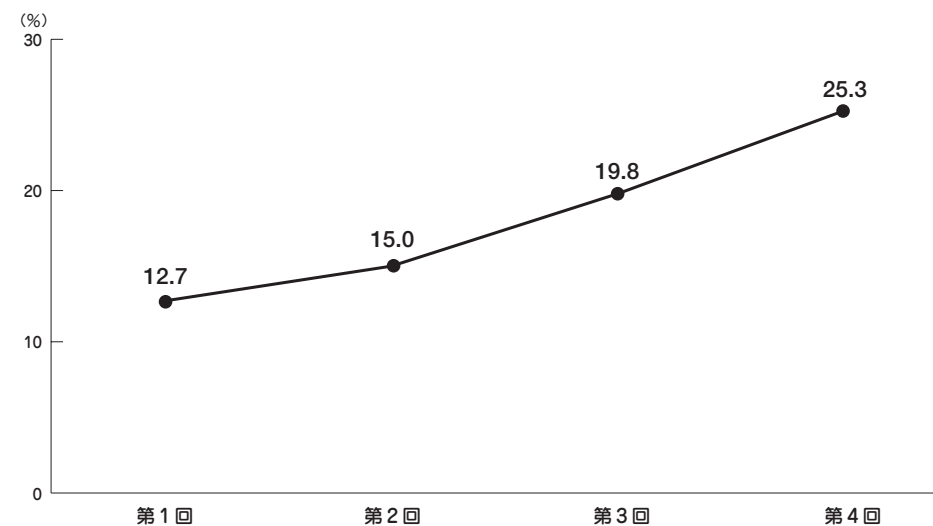
表2-1-20は学校の偏差値帯別で、学習塾や予備校の利用率を示したものである。偏差値の高い学校に通っている高校生ほど通塾率が高く、偏差値55以上の学校群では39.1%の高校生が通塾している結果となった。逆に45未満の学校に通う高校生では12.6%と1割程度である。

学習塾や予備校の利用状況について学校の偏差値帯別でみると（表2-1-21）、週あたりの通塾日数の最頻値が「2日」であることは全体傾向と変わらないものの、「週4日以上」の通塾率は偏差値55以上の学校に通っている高校生で16.4%と、他の学校群と比べ

て高い。また学習塾（予備校）の種類では、偏差値55以上の学校に通っている高校生では「進学塾」54.6%、「補習塾」35.8%と、「進学

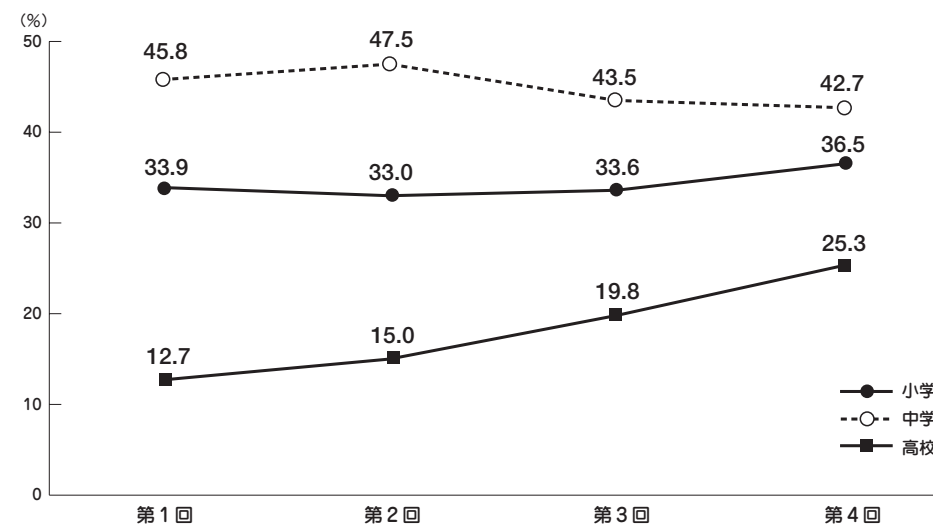
塾」の比率が高い。逆に45未満の学校に通う高校生では「進学塾」30.6%、「補習塾」55.6%と「補習塾」の比率が高くなっている。

図2-1-16 学習塾や予備校の利用率（時系列）



注1) 放課後や休日（第1回～第3回は日曜日）の、学習塾や予備校の利用率。ただし、習字などの塾は除き、自習教室は含む。
注2) サンプル数は第1回2,005名、第2回2,615名、第3回3,808名、第4回4,464名。

図2-1-17 学習塾や予備校の利用率（時系列・学校段階別）



注1) 放課後や休日（第1回～第3回は日曜日）の、学習塾や予備校の利用率。ただし、習字などの塾は除き、自習教室は含む。
注2) サンプル数は、小学生第1回2,578名、第2回2,665名、第3回2,402名、第4回2,726名。中学生第1回2,544名、第2回2,755名、第3回2,503名、第4回2,371名。高校生第1回2,005名、第2回2,615名、第3回3,808名、第4回4,464名。

表2-1-19 学習塾や予備校の利用状況(時系列)

		(%)			
		第1回 (254)	第2回 (391)	第3回 (755)	第4回 (1,128)
週に何日行っているか	1日	28.3	26.1	27.0	25.9
	2日	48.0	48.8	44.5	> 38.8
	3日	13.4	10.0	< 17.0	18.2
	4日	5.5	5.1	5.4	5.9
	5日	0.0	1.0	2.1	3.7
	6日	0.8	0.5	0.9	1.9
	7日(毎日)	0.4	1.3	0.5	2.8
学習塾(予備校)のタイプ	学校の勉強がわかるようになるための補習塾	44.5	> 35.8	40.5	40.1
	大学や短期大学を受験するための進学塾	44.9	46.8	46.1	49.2
	その他	6.7	10.0	10.3	8.3

注1) 学習塾や予備校に「行っている」と回答した人のみを対象としている。
 注2) 無回答・不明は除いている。
 注3) <>は5ポイント以上差があるもの。
 注4) ()内はサンプル数。

表2-1-20 学習塾や予備校の利用率(偏差値帯別)

		(%)			
		偏差値55以上 (1,593)	50以上55未満 (905)	45以上50未満 (416)	45未満 (1,550)
放課後や休日に学習塾や予備校へ行っているか	行っている	39.1	≫ 23.6	22.8	≫ 12.6
	行っていない	55.2	≪ 68.6	66.6	< 72.3

注1) 無回答・不明は除いている。
 注2) ≪≫は10ポイント以上、<>は5ポイント以上差があるもの。
 注3) ()内はサンプル数。

表2-1-21 学習塾や予備校の利用状況(偏差値帯別)

		(%)			
		偏差値55以上 (623)	50以上55未満 (214)	45以上50未満 (95)	45未満 (196)
週に何日行っているか	1日	21.5	≪ 33.6	> 27.4	30.6
	2日	41.3	36.4	< 45.3	≫ 30.6
	3日	18.1	14.5	15.8	< 23.5
	4日	6.1	6.5	3.2	6.1
	5日	4.0	3.7	3.2	3.1
	6日	2.4	1.4	2.1	0.5
	7日(毎日)	3.9	0.9	1.1	2.6
学習塾(予備校)のタイプ	学校の勉強がわかるようになるための補習塾	35.8	35.5	≪ 46.3	< 55.6
	大学や短期大学を受験するための進学塾	54.6	53.7	≫ 42.1	≫ 30.6
	その他	7.4	9.8	7.4	10.2

注1) 学習塾や予備校に「行っている」と回答した人のみを対象としている。
 注2) 無回答・不明は除いている。
 注3) ≪≫は10ポイント以上、<>は5ポイント以上差があるもの。
 注4) ()内はサンプル数。

② 諸学習機会の利用

「今年の夏休みに、学校が行う補習授業を受ける予定だ」が38.8%と最も比率が高いものの、時系列でみると第1回から着実に減少している。また「学校で朝や放課後の補習授業を受けている」も同様に減少傾向にある。逆に第1回から増加傾向にあるのが「今年の夏休みに、塾や予備校の夏期講習に行く予定だ」であり、第4回では18.7%とほぼ2割を占める。

Q | あなたは次のようなことをしていますか。

p.56~58では学校外での学習機会について主に通塾状況を確認したが、ここでは高校生の「学校の補習授業」「塾や予備校の夏期講習」「通信教育」「家庭教師」などの学習機会の利用について確認する。

なお学校の補習授業は学校内で行われることが多いため、厳密には「学校外」ではないが、正規の教育課程ではないことから、比較分析の対象とした。また学校の補習授業は(1)朝や放課後、(2)夏休みの補習に分けてたずねている。

まず諸学習機会の利用の時系列変化をみよう(図2-1-18)。「今年の夏休みに、学校が行う補習授業を受ける予定だ(以下、学校の夏期講習)」が38.8%と最も比率が高いものの、時系列でみると第1回から着実に減少している。また「学校で朝や放課後の補習授業を受けている(以下、学校の補習)」も同様に減少傾向にある。

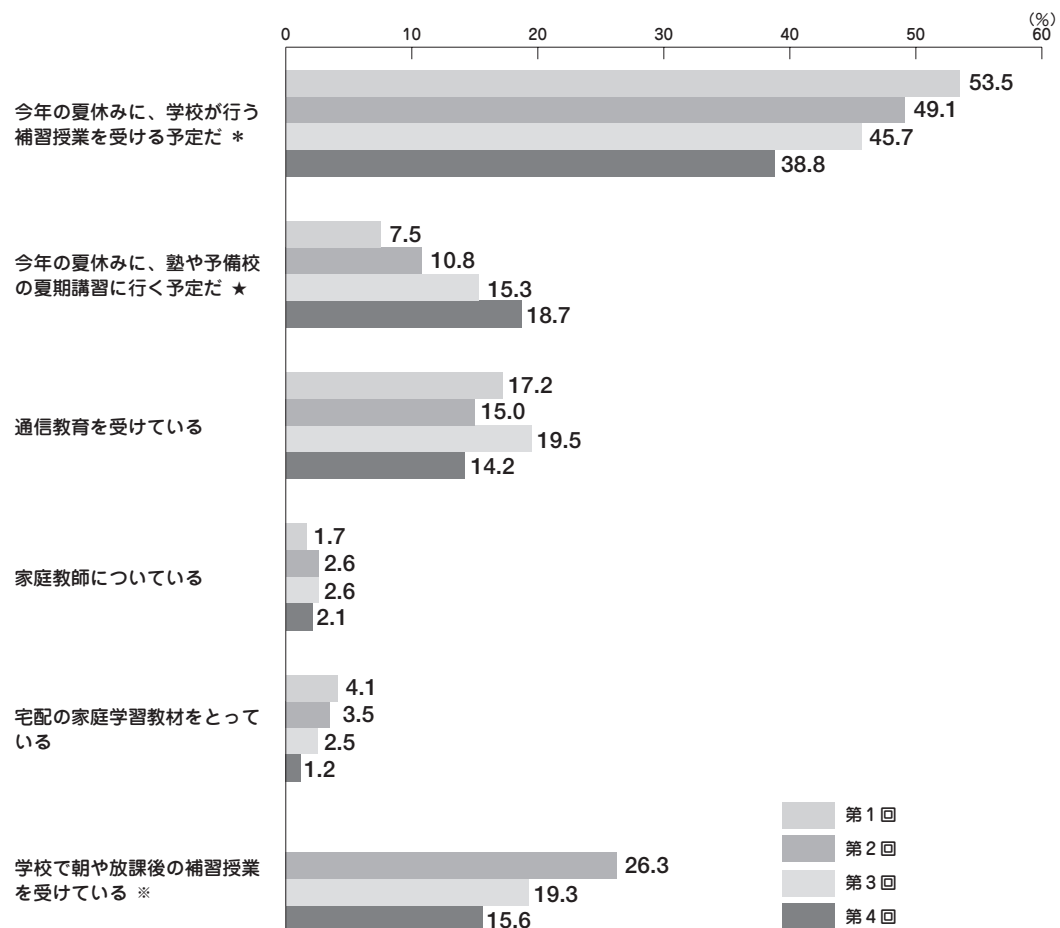
一方、第1回から増加傾向にあるのが「今年の夏休みに、塾や予備校の夏期講習に行く

予定だ(以下、塾・予備校の夏期講習)」であり、第4回では18.7%とほぼ2割を占める。これは図2-1-16(p.57)で確認した通塾率の増加と関係があるものと考えられる。

また「通信教育を受けている(以下、通信教育)」は、第1回から15~20%程度のところで推移している。「家庭教師についている(以下、家庭教師)」「宅配の家庭学習教材をとっている(以下、宅配教材)」はいずれも1割にも満たないが、「宅配教材」は減少傾向がみられる。

学校の偏差値帯別での結果は表2-1-22に示した。偏差値55以上の学校群に通う高校生は「学校の夏期講習」49.8%、「塾・予備校の夏期講習」28.4%、「学校の補習」20.2%と、他の学校群に通う高校生に比べ利用する比率が高く、これら複数の学習機会の利用率が高い。なお「通信教育」は45未満の学校群の高校生で7.9%と低いものの、他の学校群ではほぼ17%前後で差異はみられない。

図2-1-18 諸学習機会の利用(時系列)



注1) 複数回答。
 注2) *第1回は「今年の夏休みに、学校が行う補習授業を受けた」。
 ★第1回は「今年の夏休みに、塾や予備校の夏期講習に行った」。
 注3) ※は第1回に該当項目なし。
 注4) サンプル数は第1回2,005名、第2回2,615名、第3回3,808名、第4回4,464名。

表2-1-22 諸学習機会の利用(偏差値帯別)

	(%)			
	偏差値55以上 (1,593)	50以上55未満 (905)	45以上50未満 (416)	45未満 (1,550)
今年の夏休みに、学校が行う補習授業を受ける予定だ	49.8	32.3	42.1	30.6
今年の夏休みに、塾や予備校の夏期講習に行く予定だ	28.4	22.3	12.5	8.4
学校で朝や放課後の補習授業を受けている	20.2	7.3	6.7	18.1
通信教育を受けている	18.0	17.3	16.1	7.9
家庭教師についている	2.4	1.5	2.9	1.9
宅配の家庭学習教材をとっている	1.4	1.0	2.2	0.8

注1) 複数回答。
 注2) <>は10ポイント以上、<>は5ポイント以上差があるもの。
 注3) ()内はサンプル数。

4. 学習の方法

① 学習の方法

第1回と比較して、「辞書(英語・国語など)を引く」と回答した比率が75.8%から54.2%へと20ポイント以上減少した。もっとも増加したのは、「教科書やテキストをくり返し読む」(47.7%→67.1%)で、教科書中心の学習をする傾向が強まっている。性別では、女子がまじめに学習している様子がわかる。

Q | 家では、どんな勉強の仕方をする人が多いですか。

ここでは、学習方法やメディアの利用状況などについてたずねた項目を中心に検討していきたい。

図2-1-19では、学習の方法について時系列の変化を示している。数値は、「よくする」と「時々する」を合計したものである。第1回と比べて5ポイント以上減少した項目は、「辞書(英語・国語など)を引く」(第1回75.8%→第4回54.2%、以下同)、「参考書を読む」(45.5%→37.2%)、「教科書ガイドを使う」(44.2%→23.6%)の3項目である。辞書を引く機会が、この十数年で大きく減っている様子がうかがえる。また、参考書や教科書ガイドといった理解を助ける教材の利用も減少している。

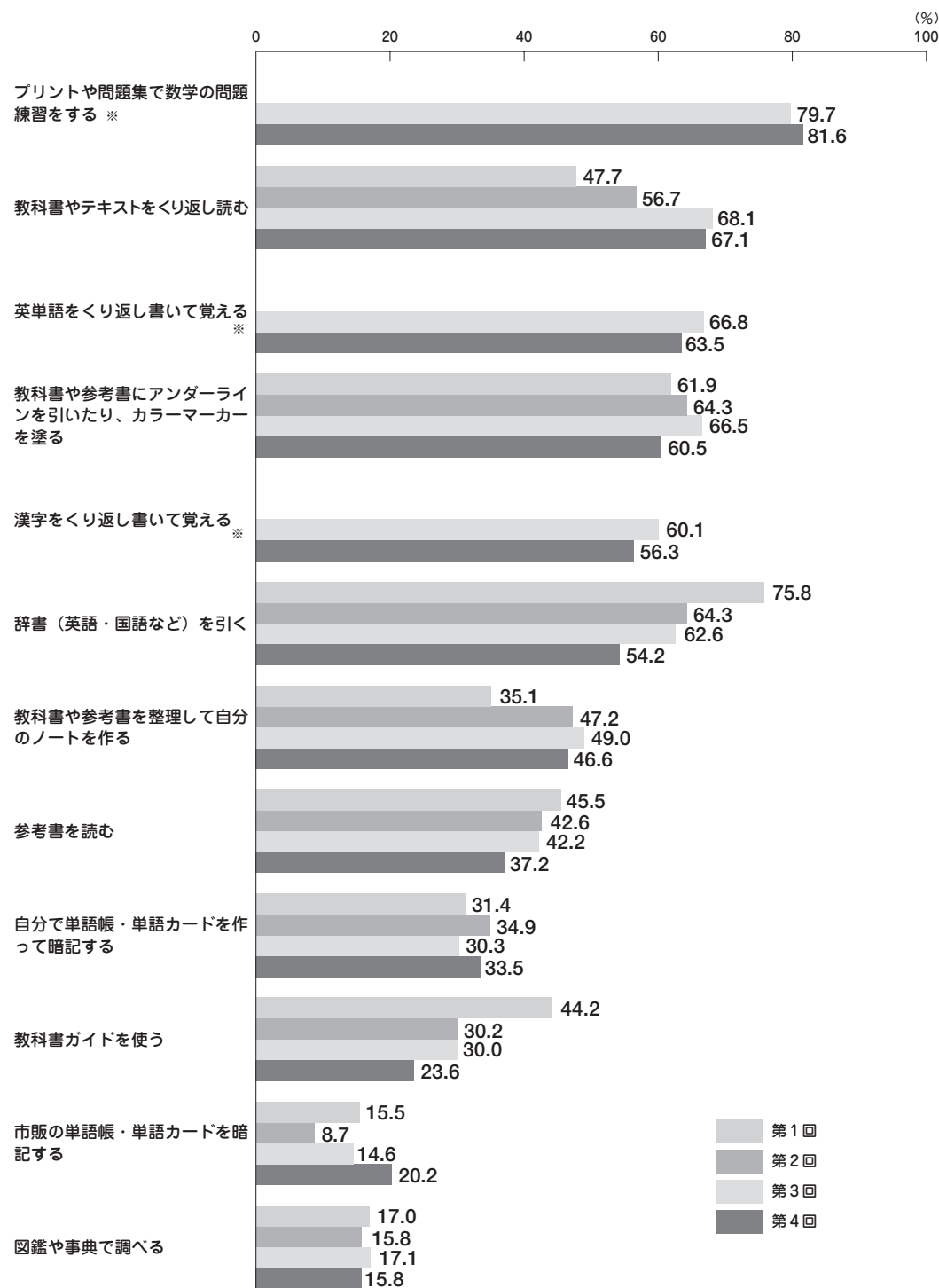
一方、第1回と比べて5ポイント以上増加している項目は、「教科書やテキストをくり返し読む」(47.7%→67.1%)、「教科書や参考書を整理して自分のノートを作る」(35.1%→46.6%)の2項目である。1990年代からの変化として、教科書を活用する傾向が強まっていることがわかる。また、「教科書や参考書を整理して自分のノートを作る」という回答が増えており、学習ノートの作成をていねいに指導する学校が増えていることが推察できる。

図2-1-20は、学習の方法について性別にみたものである。ここからは、女子がまじめに学習している様子がよくわかる。多くの項目で、男子よりも女子の数値のほうが高い

が、「英単語をくり返し書いて覚える」(女子70.4%>男子56.5%、以下同)、「教科書や参考書にアンダーラインを引いたり、カラーマーカーを塗る」(71.6%>48.8%)、「漢字をくり返し書いて覚える」(62.7%>49.5%)、「辞書(英語・国語など)を引く」(60.5%>47.4%)、「教科書や参考書を整理して自分のノートを作る」(54.7%>38.2%)、「自分で単語帳・単語カードを作って暗記する」(41.8%>24.9%)などは10ポイント以上も異なり、性差が大きい。女子は、反復練習や辞書を引くこと、単語カードの作成などといった地道な学習をよく行っている。また、カラーマーカーの使用や自分のノートの作成など、工夫した学習をしている様子が表れている。男子は、「参考書を読む」(男子40.0%>女子34.4%)の比率が若干高いのが特徴である。

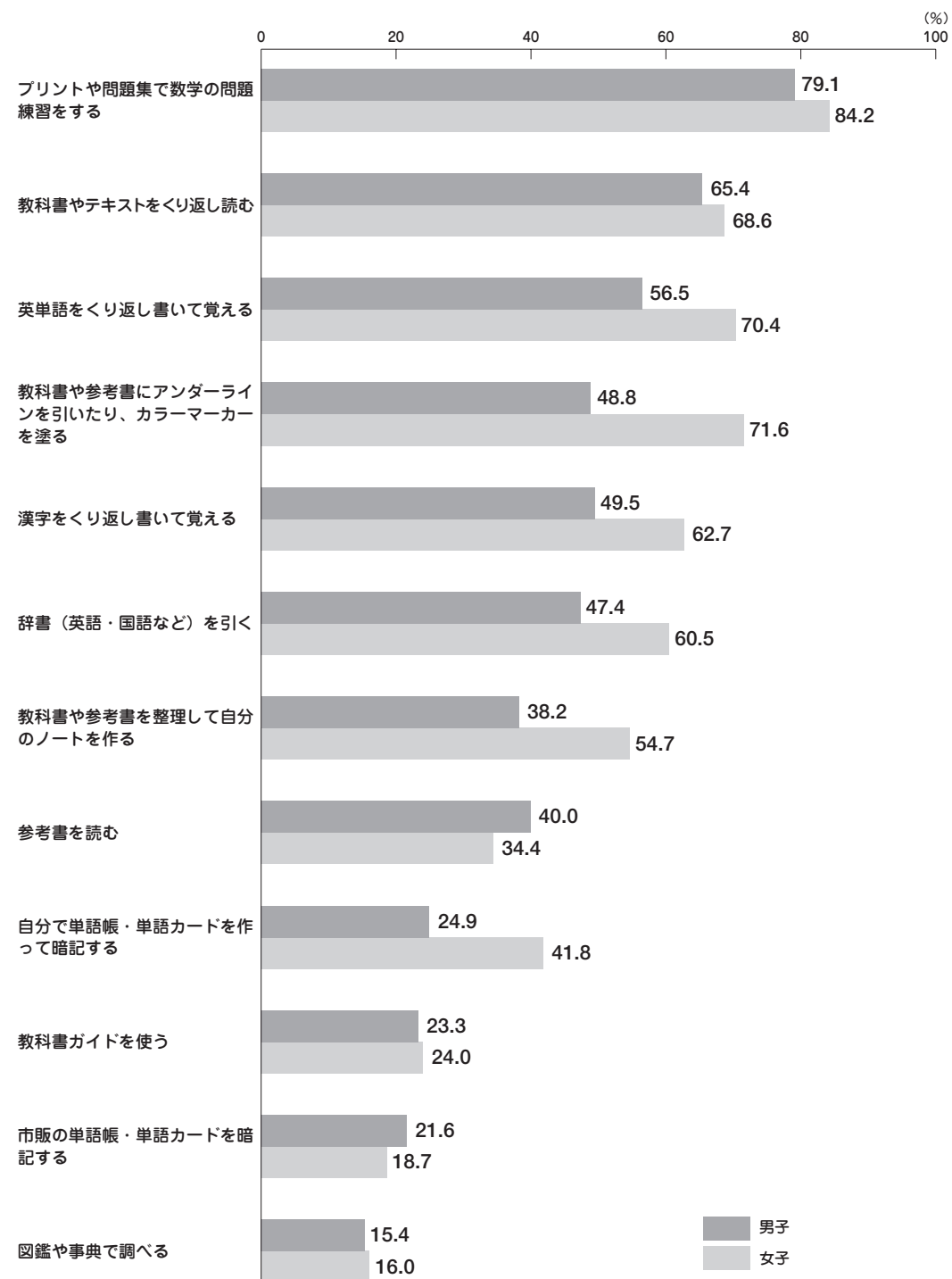
こうした学習方法は、学校の偏差値帯別にみても異なる。図2-1-21では、とくに差が大きいものを選んで示したが、「プリントや問題集で数学の問題練習をする」「辞書(英語・国語など)を引く」「参考書を読む」「市販の単語帳・単語カードを暗記する」などは、高い偏差値帯の学校群の高校生が行っている学習方法である。一方、「漢字をくり返し書いて覚える」「教科書や参考書を整理して自分のノートを作る」などは、低い偏差値帯の学校群の高校生のほうが、比率が高い。

図2-1-19 学習の方法(時系列)



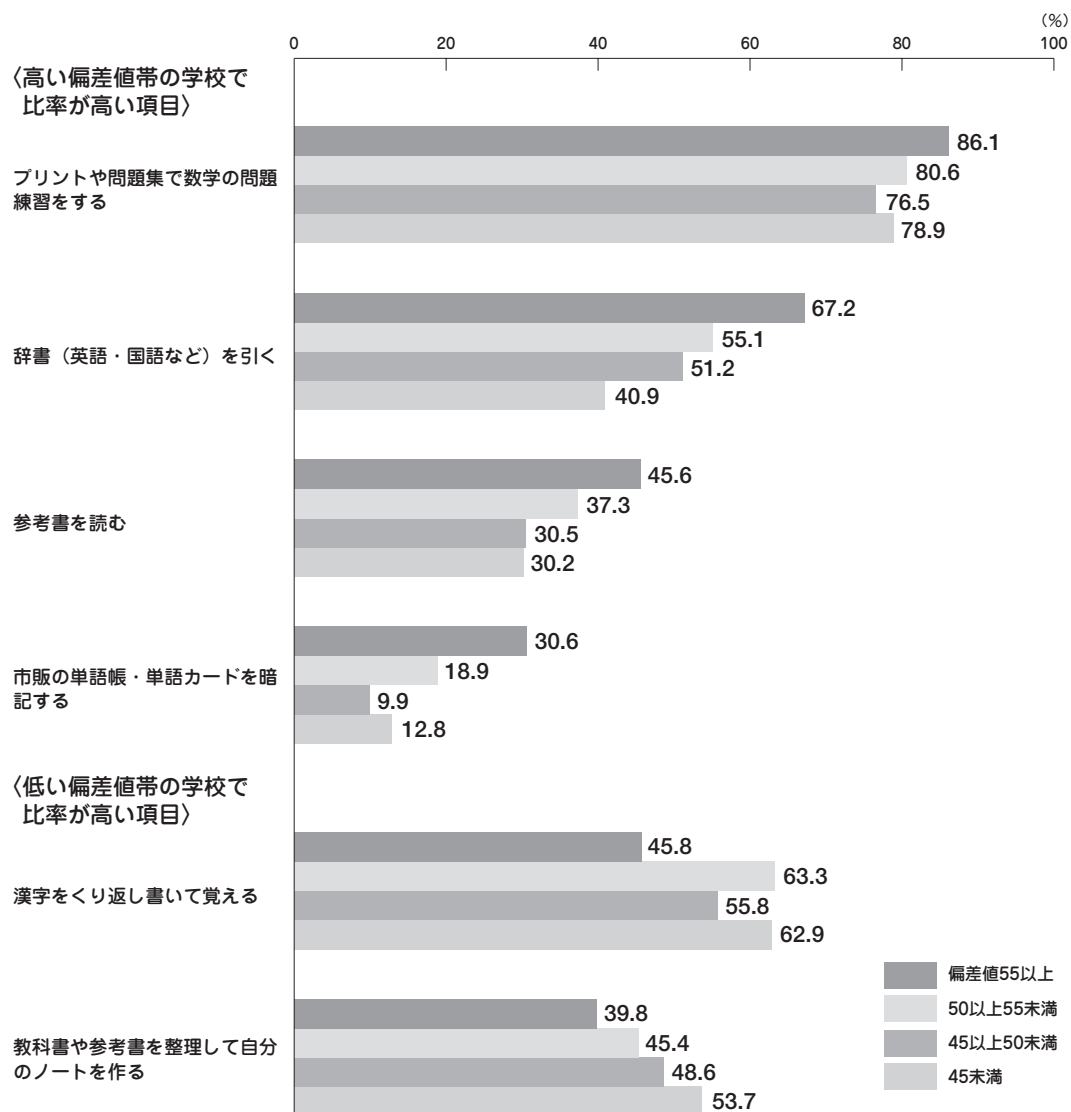
注1) 数値は「よくする」と「時々する」の合計。
 注2) ※は第1回・第2回に該当項目なし。
 注3) サンプル数は第1回2,005名、第2回2,615名、第3回3,808名、第4回4,464名。

図2-1-20 学習の方法(性別)



注1) 数値は「よくする」と「時々する」の合計。
 注2) サンプル数は男子2,168名、女子2,269名。

図2-1-21 学習の方法(偏差値帯別)



注1) 数値は「よくする」と「時々する」の合計。
 注2) サンプル数は偏差値55以上1,593名、50以上55未満905名、45以上50未満416名、45未満1,550名。

② 学習方法のタイプ

学習方法のタイプについては、「学校で使う教材中心」(92.9%)、「自分で整理しながら勉強する」(87.1%)、「試験の前にまとめて勉強する」(82.5%)などを選択する比率が高い。また、高い偏差値帯の学校群の高校生は、「考える」機会を多く持っていることがわかる。

Q あなたの勉強の仕方を分類するとすれば、どんなタイプになりますか(1か2のどちらか近いほうの番号に○をつけてください)。

どのようなタイプの学習をしているのかを明らかにするために、異なる12対の学習方法を示し、自分のスタイルがどちらに近いかを選んでもらった。図2-1-22は、その結果である。数値は選択された比率を示している。なお、「無回答・不明」があるために、図中の数値を合計しても100%にはならない。

最初に、どのようなタイプが多いかを確認しよう。

差が大きいものに注目すると、(1)「通信教育、学習塾の教材や自分で買った教材中心」(6.5%)よりも「学校で使う教材中心」(92.9%)、(2)「市販の要点整理などを使う」(12.2%)よりも「自分で整理しながら勉強する」(87.1%)、(3)「毎日コツコツ勉強する」(17.0%)よりも「試験の前にまとめて勉強する」(82.5%)、(4)「参考書中心」(19.5%)よりも「問題集中心」(79.6%)といった結果になっている。学校の教材を使って、自分で整理しながら勉強するタイプが多いようだ。学習は試験前に集中して行い、毎日継続して行うタイプは少ない。

時系列の変化は、それほど大きくない。10ポイント以上変化している項目は、「問題集中心」か「参考書中心」かをたずねた1項目だけで、「問題集中心」(第1回63.9%→第4回79.6%、以下同)が増えて、「参考書中心」(35.5%→19.5%)が減っている。

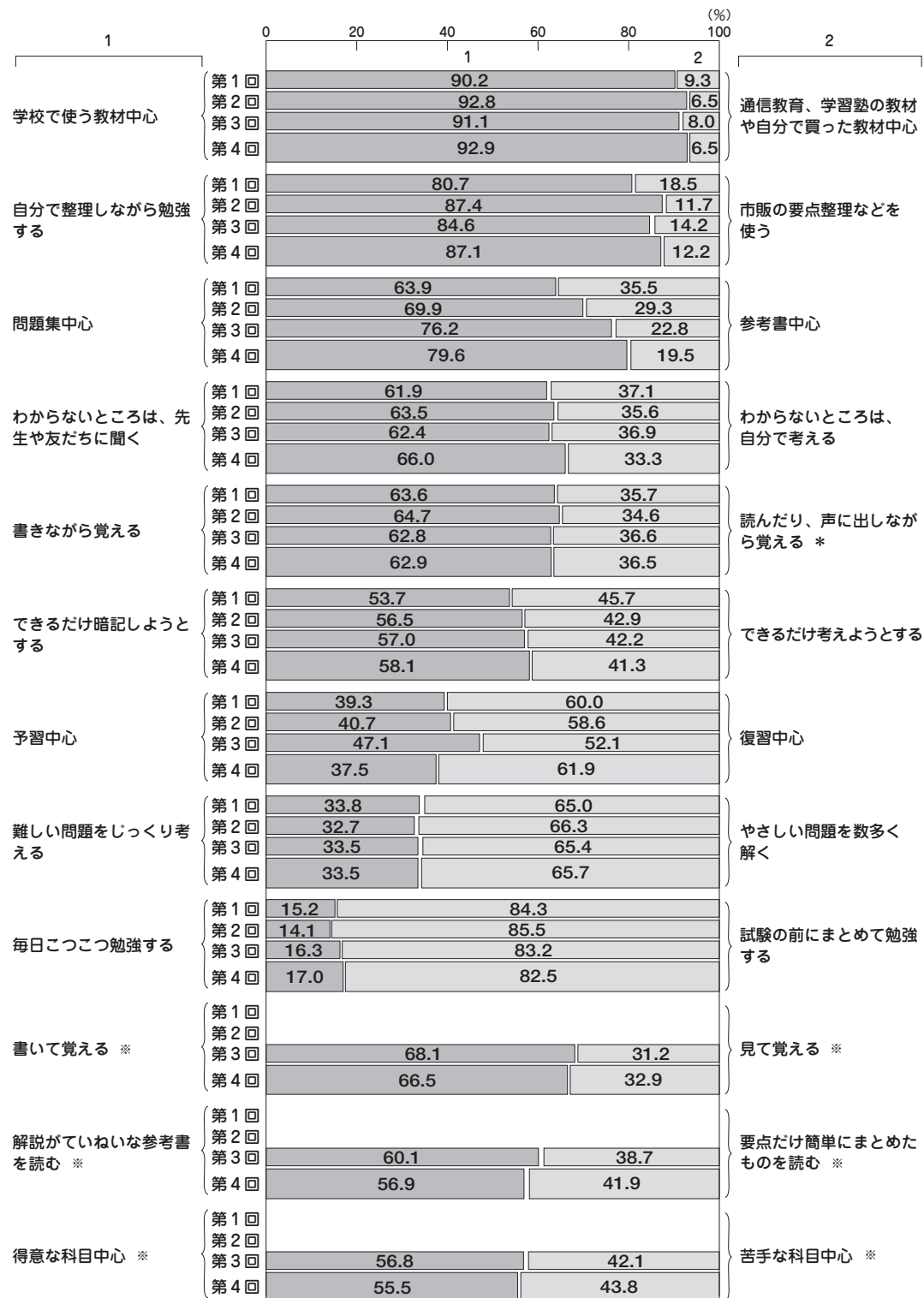
さらに、差が大きい項目に限って、図2-1-23に性別での違いをまとめた。これを見ると、性別により学習方法が異なることがよ

くわかる。男子に多いのは、「見て覚える」「わからないところは、自分で考える」「できるだけ考えようとする」「難しい問題をじっくり考える」「復習中心」である。自分で「考える」という回答が多いのが特徴といえよう。

一方、女子に多いのは、「書いて覚える」「わからないところは、先生や友だちに聞く」「できるだけ暗記しようとする」「やさしい問題を数多く解く」「予習中心」である。女子は、じっくり考えるような学習よりも、暗記したり、やさしい問題を数多く解いたりする学習を多く行っている。自分で考えるだけでなく、先生や友だちといったリソースを活用して解決を図ろうとする傾向が強いところも特徴的である。

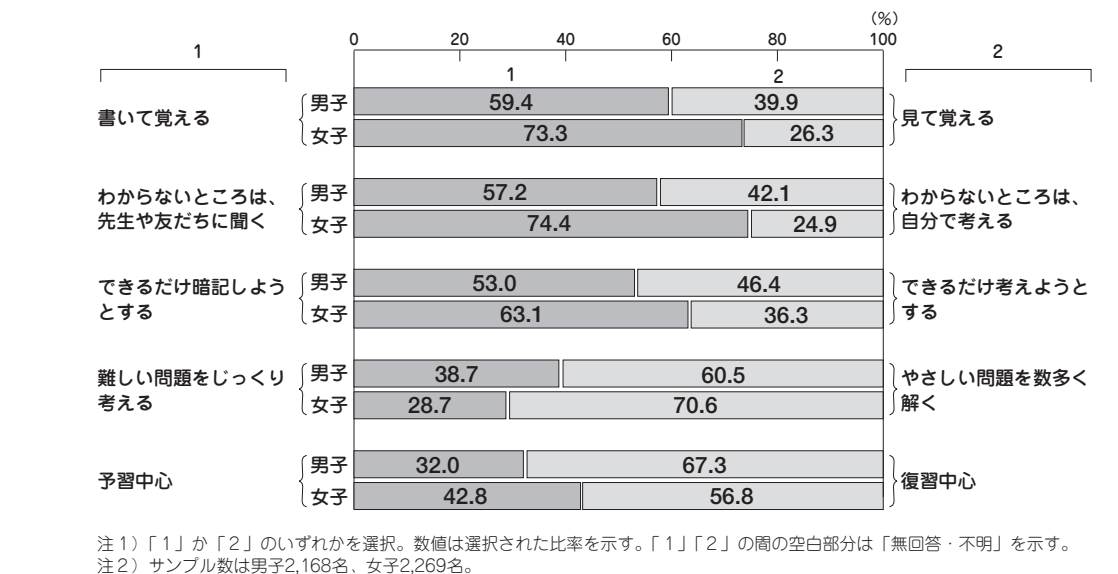
学習方法のタイプは、学校の偏差値帯別にみても異なる。図2-1-24をみると、高い偏差値帯の学校群の高校生ほど、「できるだけ考えようとする」「解説がいていい参考書を読む」「予習中心」「難しい問題をじっくり考える」「毎日コツコツ勉強する」を選択している。こうした学校群の高校生は、思考する機会を多く持ち、詳しい参考書を使って学習していることがわかる。一方、低い偏差値帯の学校群の高校生は、「できるだけ暗記しようとする」「要点だけ簡単にまとめたものを読む」「復習中心」「やさしい問題を数多く解く」「試験の前にまとめて勉強する」を選択する比率が高い。どちらかという、受身的な学習スタイルが多いといえる。

図2-1-22 学習方法のタイプ(時系列)



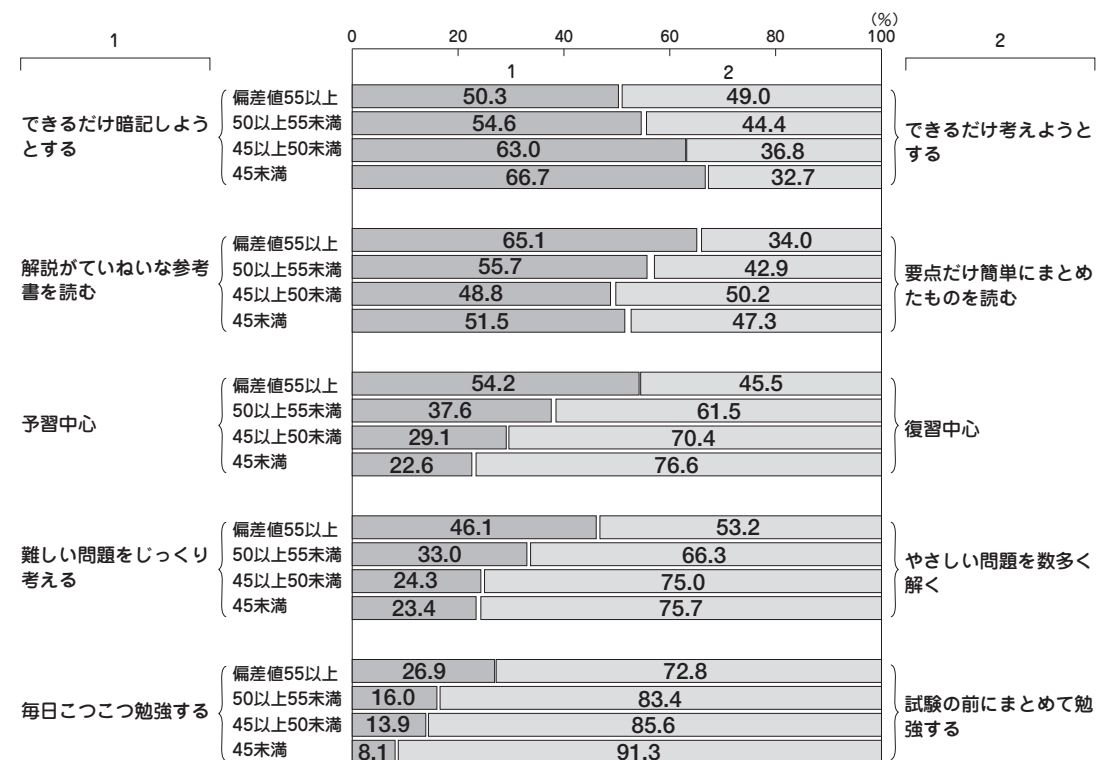
注1) 「1」か「2」のいずれかを選択。数値は選択された比率を示す。「1」「2」の間の空白部分は「無回答・不明」を示す。
 注2) *第1回～第3回は「読んだり、しゃべりながら覚える」。
 注3) *は第1回・第2回に該当項目なし。
 注4) サンプル数は第1回2,005名、第2回2,615名、第3回3,808名、第4回4,464名。

図2-1-23 学習方法のタイプ(性別)



注1) 「1」か「2」のいずれかを選択。数値は選択された比率を示す。「1」「2」の間の空白部分は「無回答・不明」を示す。
 注2) サンプル数は男子2,168名、女子2,269名。

図2-1-24 学習方法のタイプ(偏差値帯別)



注1) 「1」か「2」のいずれかを選択。数値は選択された比率を示す。「1」「2」の間の空白部分は「無回答・不明」を示す。
 注2) サンプル数は偏差値55以上1,593名、50以上55未満905名、45以上50未満416名、45未満1,550名。

③ メディアの利用

「家でパソコンを使う」のは71.2%、「学校でパソコンを使う」のは31.5%であり、10年前と比較して大きく増加した。「家でインターネットを使って何か調べる」高校生も、約7割に達する。

Q | パソコンやテレビなどのメディア（機械）についてうかがいます。

総務省が行っている『通信利用動向調査(平成17年)』によると、パソコンの保有率(世帯)は、平成9年までは2割台であるが、平成12年に5割に達し、平成17年には8割を超えている。いまや多くの家庭にパソコンがあり、子どもたちもそれに接する機会が増えていることが容易に推察できる。また、高校では平成15年度から「情報科」が必修となった。文部科学省が行っている『学校における情報教育の実態等に関する調査』によると、「教育用コンピュータ1台あたりの生徒数(高校)」は、平成12年には10.0人であったが、その5年後の平成17年には5.5人となっている。学校でも、子どもが使えるパソコンの台数が増えている状況がうかがえる。このように、ここ数年で子どもたちをめぐるメディア環境は大きく変わっているが、高校生は実際にどれくらいパソコンに触れているのだろうか。また、それをどの程度、学習に利用しているのだろうか。

本調査では、パソコンを含めたメディアの利用について8項目にわたってたずねた(図2-1-25)。「ある」「よくある」+「時々ある」の%、以下同)と回答した高校生の比率をみると、「家でパソコンを使う」は第2回では21.2%であったが、第4回では71.2%となっている。第2回から第4回までの10年間で3倍以上増えていることがわかる。さらに、家庭での利用は頻度が高いことも特徴であり、およそ3人に1人が「よくある」と回答している。

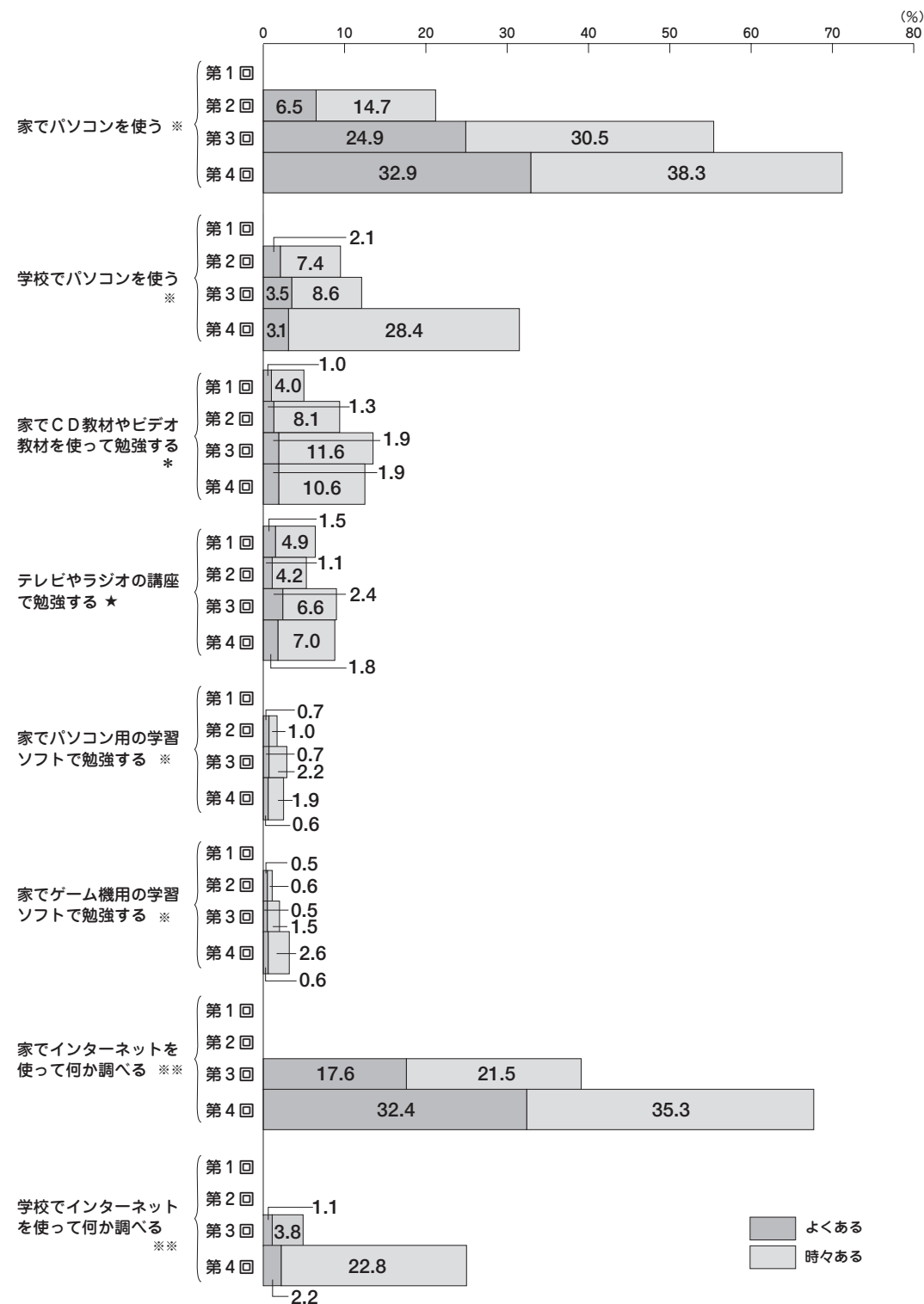
これに対して、「学校でパソコンを使う」は、第2回から伸びてはいるが、家庭での利

用に比べて頻度が低く、第4回は31.5%にとどまっている。「情報科」の授業は1年次に設定されることが多いが、そのことが影響している可能性がある。ただし、それ以外の授業のなかでもパソコンが利用される場面はそれほど多くはないようだ。ちなみに、この項目について、小学生は88.2%、中学生は65.4%と高い比率である(『第4回学習基本調査・国内調査報告書・小学生版』『同報告書・中学生版』参照)。

「家でインターネットを使って何か調べる」と「学校でインターネットを使って何か調べる」の2項目も、同様の結果となった。家庭での利用は、第3回39.1%から第4回67.7%と28.6ポイント増加しており、およそ7割の高校生が調べものをするときにインターネットを使っている。他方、学校での利用については20.1ポイント伸びてはいるものの(第3回4.9%→第4回25.0%)、4人に1人という割合にとどまっている。高校生のインターネット利用率は、パソコンの利用率と同様に学校ではあまり高くない。

「家でCD教材やビデオ教材を使って勉強する」「テレビやラジオ講座で勉強する」の2項目は1割前後で推移し、それほど大きな変化はない。また、「家でパソコン用の学習ソフトで勉強する」「家でゲーム機用の学習ソフトで学習する」の2項目は数パーセントである。中学生ではこうした新しいメディアやソフトを用いて学習する者が増加傾向にある(『第4回学習基本調査・国内調査報告書・中学生版』参照)が、高校生ではまだ少数であることがわかる。

図2-1-25 メディアの利用(時系列)



注1) ※第1回・第2回は「カセットテープ教材やビデオ教材を使って勉強する」。第3回は「CD教材やビデオ教材を使って勉強する」。★第2回は「テレビやビデオの講座で勉強する」。
 注2) ※は第1回に該当項目なし。※※は第1回・第2回に該当項目なし。
 注3) サンプル数は第1回2,005名、第2回2,615名、第3回3,808名、第4回4,464名。